

救急救命科 シラバス 2 学年



学校法人セムイ学園

東海医療工学専門学校

救急救命科 （ 2 学年 ）

令和 7 年度（2025 年度） シラバス目次

科目名	項
薬理学	2
心肺停止	4
ショック・循環不全	7
救急症候・病態生理学Ⅳ	9
疾病救急医学Ⅴ	11
疾病救急医学Ⅵ	15
外傷救急医学Ⅳ	19
環境障害・急性中毒	21
シミュレーション実習Ⅲ	25
シミュレーション実習Ⅳ	44
臨床実習	60

科目名	項

学科・年次	救急救命科 2年次
科目名	薬理学 (Pharmacology)
担当者	森 健
単位数 (時間数)	2 単位 (30 時間)
学習方法	講 義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第10版

授業概要と目的
【 学習目的 】 疾病及び障害に関する知識を系統的に習得する。 【 授業概要 】 医療従事者として医薬品に対する基礎的な薬理学の知識の習得を目標とする。まず総論で薬力学及び薬物動態学を通して薬理学の概要を学習する。次に各論で各々の臓器に作用する薬物の薬効と作用機序を副作用とともに学習する。 なお、薬剤師（薬学博士）として医療機関などで薬理学に関する臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期 (4月～9月)	「薬物（概論）」 薬物に関する概論について理解する。	「医薬品の基礎」 ・医薬品の定義について説明できる。 ・毒薬と劇薬の違いについて説明できる。	森 健
2	前期 (4月～9月)	「薬物の作用」 薬物の量による有効域、中毒域（危険域） などの作用について理解する。	「薬物の有害作用」 ・薬物における ED50 について説明できる。 ・薬物における LD50 について説明できる。	森 健
3	前期 (4月～9月)	「薬物の投与方法と剤形」 薬物の代表的な投与経路および剤形のあり 方について理解する。	「薬物の投与方法など」 ・用量と用法の違いについて説明できる。	森 健
4	前期 (4月～9月)	「薬物の有害作用」 薬物の量による有効域、中毒域（危険域） などの作用について理解する。	「薬物の有害作用」 ・ED50 について説明できる。 ・LD50 について説明できる。	森 健
5	前期 (4月～9月)	「神経系薬物（1）」 神経系に作用する薬物の適応、禁忌、使用 上の注意について理解する。	「交感神経系の作用薬」 ・アドレナリンにおける血管作用（α作用・β作用）に ついて説明できる。	森 健
6	前期 (4月～9月)	「輸 液」 輸液の適応、禁忌、使用上の注意について 理解する。	「輸 液」 ・乳酸リンゲル液および酢酸リンゲル液の適応と成分 について説明できる。	森 健

7	前期 (4月～9月)	「循環系薬物」 循環器系に作用する薬物の適応、禁忌、使用上の注意について理解する。	「降圧薬・利尿薬・抗血栓薬など」 ・浸透圧利尿薬およびループ利尿薬の適応と使用上の注意について説明できる。	森 健
8	前期 (4月～9月)	「呼吸器系薬物」 呼吸器系に作用する薬物の適応、禁忌、使用上の注意について理解する。	「気管支喘息治療薬など」 ・ β_2 刺激薬の適応と使用上の注意について説明できる。	森 健
9	前期 (4月～9月)	「神経系薬物（2）」 神経系に作用する薬物の適応、禁忌、使用上の注意について理解する。	「向精神薬・抗不安薬など」 ・向精神薬、抗不安薬の適応と使用上の注意について説明できる。	森 健
10	前期 (4月～9月)	「神経系薬物（3）」 神経系に作用する薬物の適応、禁忌、使用上の注意について理解する。	「抗うつ薬・抗てんかん薬など」 ・抗うつ薬、抗てんかん薬の適応と使用上の注意について説明できる。	森 健
11	前期 (4月～9月)	「神経系薬物（4）」 神経系に作用する薬物の適応、禁忌、使用上の注意について理解する。	「麻酔薬・鎮痛薬」 ・リドカインおよびモルヒネの適応と使用上の注意について説明できる。	森 健
12	前期 (4月～9月)	「感染症治療薬（1）」 感染症治療薬の適応、禁忌、使用上の注意について理解する。	「抗菌薬」 ・抗菌薬（抗生物質、抗生剤）の適応と使用上の注意について説明できる。	森 健
13	前期 (4月～9月)	「感染症治療薬（2）」 感染症治療薬の適応、禁忌、使用上の注意について理解する。	「抗ウイルス剤」 ・抗ウイルス薬の適応と使用上の注意について説明できる。	森 健
14	前期 (4月～9月)	「輸血製剤」 輸血製剤の適応、禁忌、使用上の注意について理解する。	「輸血製剤」 ・輸血製剤の適応と分類について説明できる。	森 健
15	前期 (4月～9月)	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	森 健
成績評価方法		筆記試験（100点満点） ＊ 加点として平常点（プリントの作成）との合算とする。		
準備学習など		【 講師からのアドバイス 】 薬理学は専門分野で広い範囲となりますので、プリント・教科書の毎回の復習をしていただきたいです。		

学科・年次	救急救命科 2年次
科目名	心肺停止 (Cardiorespiration)
担当者	大野 健二
単位数(時間数)	2単位 (40時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第10版

授業概要と目的
【 学習目的 】 救急症候・病態生理について理解し、症候・病態ごとに観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。 【 授業概要 】 血液循環の基本原則を正確に理解し、心肺停止時にそれがどう変わるか、どう判断するか、そして処置について学習する。 なお、救急救命士として救急現場などで臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期 (4月～9月)	「細胞の代謝と人体への影響」 細胞が与える人体への影響について理解する。	「解糖と TCA サイクル」 標準テキスト P.160 参照 ・糖質の TCA サイクルについて説明できる。 ・乳酸蓄積による人体への影響について説明できる。	大野 健二
2	前期 (4月～9月)	「酸塩基平衡の役割」 酸塩基平衡による人体への影響について理解する。	「酸塩基平衡」 標準テキスト P.162 参照 ・酸塩基平衡の調節について説明できる。 ・浸透圧の調節について説明できる。	大野 健二
3	前期 (4月～9月)	「循環不全による心停止」 循環不全による心肺停止に至る病態と原因について理解する。	「循環動態の変化」 救命士標準テキスト P.480 参照 ・カテコラミンなどによる循環動態の変化について説明できる。	大野 健二
4	前期 (4月～9月)	「心源性心停止(1)」 心機能停止による心停止の原因と病態生理について理解する。	「心臓ポンプ機能」 救命士標準テキスト P.115 参照 ・スターリング曲線について説明できる。 ・前負荷と後負荷について説明できる。	大野 健二
5	前期 (4月～9月)	「心源性心停止(2)」 心機能停止による心停止の原因と病態生理について理解する。	「心不全による心停止」 標準テキスト P.482 参照 ・心源性心停止の原因について説明できる。 ・心不全における過剰輸液投与の危険性が説明できる。	大野 健二
6	前期 (4月～9月)	「内因性救護活動と心肺蘇生法」 救急隊員による内因性救護活動と救急蘇生法のガイドラインについて理解する。	「PEMEC アルゴリズム」 ・PEMEC アルゴリズムのフローチャートにおける心肺停止時の救急隊活動について説明できる。	大野 健二

7	前期 (4月～9月)	「呼吸源性心停止」 呼吸機能停止による心停止の原因と病態生理について理解する。	「呼吸不全による心停止」 テキストP.480 参照 ・肺泡シャントの病態生理について説明できる。 ・肺泡死腔の病態生理について説明できる。	大野 健二
8	前期 (4月～9月)	「冠灌流圧（１）」 胸骨圧迫中の冠循環の病態について理解する。	「冠灌流圧」 救命士標準テキストP.483 参照 ・胸骨圧迫中の冠灌流圧の計算について説明できる。 ・肺コンプライアンス・換気血流比について説明できる。	大野 健二
9	前期 (4月～9月)	「冠灌流圧（２）」 胸骨圧迫中断中の冠循環の病態について理解する。	「CCF(胸骨圧迫中断率)」 標準テキストP.483 参照 ・CCF（胸骨圧迫中断率）について説明できる。 ・アシトミシスの酸素解離曲線の変化について説明できる。	大野 健二
10	前期 (4月～9月)	「脳灌流圧」 胸骨圧迫中の脳循環の病態について理解する。	「脳灌流圧」 救命士標準テキストP.483 参照 ・胸骨圧迫中の脳灌流圧の計算について説明できる。 ・パルスチェック（波形評価）について説明できる。	大野 健二
11	前期 (4月～9月)	「PACC（１）」 救急隊員による循環器疾患時の救護活動について理解する。	「STEMI時の対応」 ・STEMI（ST上昇型心筋梗塞）に対する救急現場での対応について説明できる。	大野 健二
12	前期 (4月～9月)	「PACC（２）」 救急隊員による循環器疾患時の救護活動について理解する。	「十二誘導心電図波形の解説」 ・救急現場における十二誘導心電図波形の計測位置について説明できる。	大野 健二
13	前期 (4月～9月)	「PACC（３）」 救急隊員による循環器疾患時の救護活動について理解する。	「心電図波形の解説（１）」 ・救急現場における不整脈の解説方法について説明できる。	大野 健二
14	前期 (4月～9月)	「PACC（４）」 救急隊員による循環器疾患時の救護活動について理解する。	「心電図波形の解説（２）」 ・救急現場における不整脈の解説方法について説明できる。	大野 健二
15	前期 (4月～9月)	「自己心拍再開後の病態」 自己心拍再開後（虚血後）の心筋などの回復に関する病態生理について理解する。	「再灌流障害」 救命士標準テキストP.484 参照 ・再灌流障害について説明できる。 ・気絶心筋について説明できる。	大野 健二
16	前期 (4月～9月)	「自己心拍再開時の評価」 自己心拍再開後の病態、回復に影響する因子について理解する。	「カプノメーター」 標準テキストP.333 参照 ・自己心拍再開時のカプノメーターによる評価方法について説明できる。	大野 健二
17	前期 (4月～9月)	「心肺停止時の呼吸管理」 心肺停止時におけるBVM換気の適応、禁忌、使用上の注意について理解する。	「静脈還流と換気量の調節」 ・過剰換気時の静脈還流の低下について説明できる。	大野 健二
18	前期 (4月～9月)	「代表的な心停止の原因」 代表的な心停止の原因とその対処について理解する。	「心停止の原因」 標準テキストP.482 参照 ・代表的な心肺停止の原因である5H5Tについて説明できる。	大野 健二
19	前期 (4月～9月)	「まとめ」 救急現場における心肺蘇生法に関する病態生理および処置・搬送について理解する。	「心肺蘇生法」 テキストP.420 参照 ・救急現場における心肺停止時の処置・搬送について説明できる。	大野 健二

20	前 期 (4 月～9 月)	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	大野 健二
成績評価方法		筆記試験（100 点満点）によって評価する。		
準備学習など		【 講師からのアドバイス 】 血液循環の基本原理を正確に理解し、心肺停止時にそれがどう変わるか、を理解する。 ショックは典型的な低酸素症であり、hypoxia の起こる機序を理解することが最も重要である。その理解には循環の生理を正確に知ることが必須である。		

学科・年次	救急救命科 2年次
科目名	ショック・循環不全 (shock & Circulatory arrest)
担当者	廣崎 英和
単位数(時間数)	1単位(20時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第10版

授業概要と目的
【 学習目的 】 救急症候・病態生理について理解し、症候・病態ごとに観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。 【 授業概要 】 ショック・循環不全の病態生理を理解した上で症状、治療、重症度の判断を学ぶ。 なお、救急救命士として救急現場などで臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期 (4月～9月)	「ショック総論」 ショックの定義と発生機序について理解する。	「ショックの定義」 救命士標準テキストP.463 参照 ・ショックの発生機序(4種類)について説明できる。 ・乳酸蓄積によるアシドーシスについて説明できる。	廣崎 英和
2	前期 (4月～9月)	「ショックの分類」 発症状況別によるショックの種類について理解する。	「各種ショックの特徴」 標準テキストP.464 参照 ・循環血液量減少性ショック時の心拍出量、心拍数、皮膚所見について説明できる。	廣崎 英和
3	前期 (4月～9月)	「循環血液量減少性ショック①」 循環血液量減少性ショックの原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「心拍出量と循環制御」 標準テキストP.463 参照 ・大量出血後にみられる体液の変動およびその内分泌の生体反応について説明できる。	廣崎 英和
4	前期 (4月～9月)	「循環血液量減少性ショック②」 循環血液量減少性ショックの原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「自律神経・内分泌の反応」 テキストP.464 参照 ・循環血液量減少に対する生体の反応(自律神経・内分泌)について説明できる。	廣崎 英和
5	前期 (4月～9月)	「心源性ショック」 心源性ショックの原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「原因疾患と発生機序」 標準テキストP.467 参照 ・心源性ショックの主な原因について説明できる。 ・左心不全合併時の典型的な徴候について説明できる。	廣崎 英和
6	前期 (4月～9月)	「心外閉塞性・拘束性ショック」 心外閉塞性・拘束性ショックの原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「原因疾患と発生機序」 標準テキストP.468 参照 ・心外閉塞性・拘束性ショックの主な原因について説明できる。	廣崎 英和

7	前 期 (4 月～9 月)	「血液分布異常性ショック①」 血液分布異常性ショックの原因を列挙し、 それぞれの発症機序について理解する。	「原因疾患と発生機序」 標準テキスト P.469 参照 ・アナフィラキシーショックの発症機序について説明 できる。	廣崎 英和
8	前 期 (4 月～9 月)	「血液分布異常性ショック②」 血液分布異常性ショックの原因を列挙し、 それぞれの発症機序について理解する。	「原因疾患と発生機序」 標準テキスト P.469 参照 ・神経原性ショックや敗血症性ショックの発症機序に ついて説明できる。	廣崎 英和
9	前 期 (4 月～9 月)	「総 括」 ショック時の現場活動での観察、処置、搬 送について総合的に理解する。	「まとめ」 ・各種ショックの概念、分類、原因、病態、症候、救急 現場活動について説明できる。	廣崎 英和
10	前 期 (4 月～9 月)	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	廣崎 英和
成績評価方法		筆記試験（100 点満点）によって評価する。		
準備学習など		【 講師からのアドバス 】 特になし		

学科・年次	救急救命科 2年次
科目名	救急症候・病態生理学Ⅳ (Symptoms and PathophysiologyⅣ)
担当者	大竹 宗也
単位数(時間数)	1単位(16時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	教科書:救急救命士標準テキスト改訂第10版

授業概要と目的
【 学習目的 】 救急症候・病態生理について理解し、症候・病態ごとに観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。 【 授業概要 】 1) 血糖値の調節機構を理解し、その異常を起こす病態を理解する。 2) 血糖値の異常が起こす生理学的意義を理解する。 3) ストレスに曝された患者に起こりやすい血糖値の異常の発生機序を理解する。 4) 血糖値異常の具体的な治療の方法とその効果判定方法を理解する。 血液循環に基本原理を正確に理解し、心肺停止時にそれがどう変わるか、どう判断するか、そして処置について学習する。 なお、救急救命士として救急現場などで臨床経験のある講師が、その経験を活かして授業する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期 (4月～9月)	「糖尿病と合併症」 糖尿病の概念、疫学、病態、症候について理解する。	「糖尿病」 救命士標準テキスト P.605 参照 ・糖尿病の合併症、観察処置について説明できる。	大竹 宗也
2	前期 (4月～9月)	「低血糖の原因」 低血糖の原因疾患、病態、症候について理解する。	「低血糖の神経症状」 P.609 参照 ・交感神経症候について説明できる。 ・インスリンによる低血糖について説明できる。	大竹 宗也
3	前期 (4月～9月)	「糖尿病性昏睡」 糖尿病性ケトアシドーシスなどの原因疾患、病態、症候について理解する。	「糖尿病性昏睡」 テキスト P.611 参照 ・糖尿病性ケトアシドーシスの病態について説明できる。 ・高浸透圧高血糖症候群の病態について説明できる。	大竹 宗也
4	前期 (4月～9月)	「その他の代謝異常」 甲状腺などの内分泌疾患や代謝異常の原因疾患、病態、症候について理解する。	「その他の代謝異常」 標準テキスト P.612 参照 ・体液の異常について説明できる。 ・酸塩基平衡について説明できる。	大竹 宗也
5	前期 (4月～9月)	「救命士による血糖測定」 救命士による血糖測定の目的、適応、方法、評価について理解する。	「血糖測定」 救命士標準テキスト P.341 参照 ・救命士による血糖測定の適応について説明できる。 ・救命士による血糖測定の注意点について説明できる。	大竹 宗也

6	前期 (4月～9月)	「救命士によるブドウ糖投与」 救命士によるブドウ糖投与の目的、適応、方法、評価について理解する。	「血糖測定」 救命士標準テキスト P.392 参照 ・救命士によるブドウ糖投与の標準プロトコールについて説明できる。	大竹 宗也
7	前期 (4月～9月)	「まとめ」 低血糖、高血糖などの発症機序について総合的に理解する。	「糖尿病のまとめ」 救命士標準テキスト P.608 参照 ・経口血糖降下薬とインスリン療法の適応について説明できる。	大竹 宗也
8	前期 (4月～9月)	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	大竹 宗也
成績評価方法		筆記試験（100 点満点）によって評価する。		
準備学習など		【 講師からのアドバス 】 疾病が起こす生体機能の変化、病態生理を理解するように努めてほしい。		

学科・年次	救急救命科 2年次
科目名	疾病救急医学Ⅴ ― 高齢者に特有な疾患 ― (Emergency Medicine Ⅳ ― Diseases of aged People ―)
担当者	小澤 勝男
単位数 (時間数)	1 単位 (高齢者に特有な疾患分野 10 時間 + 精神障害分野 10 時間 = 合計 20 時間)
学習方法	講 義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第 10 版

授業概要と目的
【 学習目的 】 各種疾患（小児、高齢者、妊産婦等を含む）の発症機序、病態、症状、所見、及び予後等について理解し、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。 【 授業概要 】 高齢の傷病者を扱うさいには、高齢者の身体の構造的・生理的・精神的特徴を考慮する必要がある。それには加齢に伴う生理的機能や予備力、修復力の低下などや精神面の特徴をよく理解することが必要である。その上で主要な徴候とその対処法や高齢者によくみられる各種救急疾患について学習する。 ＊ 高齢化によって人体に起こる変化とそれによって生じる疾患について学習する。 なお、医師として医療機関などで救急医学に関する臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期 (4月～9月)	「総 論」 加齢に伴う身体機能・精神機能の変化について、その概要を理解する。	「予備能の低下に伴う障害」 テキスト P.658 参照 ・加齢に伴う生理機能の低下について説明できる。	小澤 勝男
2	前期 (4月～9月)	「高齢者疾患の特徴」 高齢者疾患の特徴を個人差、基礎疾患、常用薬、非典型的な症候について理解する。	「高齢者疾患の症候」 標準テキスト P.660 参照 ・高齢者の呼吸困難、意識障害、腹痛などの特徴について説明できる。	小澤 勝男
3	前期 (4月～9月)	「高齢者の特有な疾患」 高齢者の特有な疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「認知症・高齢者虐待」 標準テキスト P.662 参照 ・認知症および高齢者虐待の定義、原因、症状、観察、処置について説明できる。	小澤 勝男
4	前期 (4月～9月)	「高齢者の特有な疾患」 高齢者の特有な疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「せん妄・肺気腫など」 標準テキスト P.663 参照 ・せん妄および肺気腫の定義、原因、症状、観察、処置について説明できる。	小澤 勝男
5	前期 (4月～9月)	「高齢者の特有な疾患」 高齢者の特有な疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「骨粗鬆症・前立腺肥大」 テキスト P.664 参照 ・骨粗鬆症および前立腺肥大の定義、原因、症状、観察、処置について説明できる。	小澤 勝男

成績評価方法	筆記試験 <u>高齢者に特有な疾患分野 50 点</u> + 精神障害分野 50 点 = 合計 100 点満点
準備学習など	【 講師からのアドバイス 】 高齢者の特徴をよく理解する。

学科・年次	救急救命科 2年次
科目名	疾病救急医学Ⅴ－精神障害分野－（Emergency MedicineⅣ－Mental Disturbance－）
担当者	益田 健史
単位数（時間数）	1単位（高齢者に特有な疾患分野10時間＋ <u>精神障害分野10時間</u> ＝合計20時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第10版

授業概要と目的
【 学習目的 】 各種疾患（小児、高齢者、妊産婦等を含む）の発症機序、病態、症状、所見、及び予後等について理解し、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。 【 授業概要 】 精神科医療は、時代の流れのなかノーマライゼーションの理念とともに「精神病院・施設」から「地域のなかへ」というテーマを具体化する転換期にある。そのような動きの中、精神障害者の地域生活の実現のために精神科救急は切実な課題となっている。精神科救急医療体制の整備の不十分とともに、現場では精神障害者の対応に困難を感じる場合も少なからず存在しているのが現実であろう。本講義ではまず第1歩として精神障害の理解を学習してほしい。 なお、医師として医療機関・研究機関などで臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期 (4月～9月)	「総論」 精神障害を原因、症状の両面から大まかに分類し、それぞれの概要を理解する。	「精神障害の分類」 テキストP.676 参照 ・精神障害の分類により原因からの分類と症状について説明できる。	益田 健史
2	前期 (4月～9月)	「心因性精神障害」 神経症性障害、ストレス関連障害の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「パニック障害など」 テキストP.683 参照 ・パニック障害の発作の特徴について説明できる。 ・PTSDの症状について説明できる。	益田 健史
3	前期 (4月～9月)	「統合失調症」 統合失調症の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「統合失調症の症候」 標準テキストP.680 参照 ・統合失調症における陽性症状、陰性症状、認知障害について説明できる。	益田 健史
4	前期 (4月～9月)	「気分障害・器質性精神障害」 気分障害などの疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「うつ病と双極性障害」 標準テキストP.681 参照 ・うつ病の三大妄想について説明できる。 ・自殺企図に対する「TALKの原則」を説明できる。	益田 健史
5	前期 (4月～9月)	「その他の精神障害」 器質性精神障害などの疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「アルコール関連障害など」 テキストP.682 参照 ・アルコール関連障害の特徴について説明できる。 ・覚せい剤乱用・依存の症状について説明できる。	益田 健史

成績評価方法	筆記試験 高齢者に特有な疾患分野 50 点 + <u>精神障害分野 50 点</u> = 合計 100 点満点
準備学習など	【 講師からのアドバイス 】 解剖図などと併合しながら学習すると良い。

学科・年次	救急救命科 2年次
科目名	疾病救急医学Ⅵ ― 小児に特有な疾患 ― (Emergency Medicine Ⅵ ― Neonates & Pediatrics ―)
担当者	伊藤 友理枝、伊藤 友弥、松永 英幸、石川 祥一郎、池山 由紀
単位数（時間数）	1 単位（ <u>小児に特有な疾患分野 18 時間</u> + 妊娠・分娩と救急疾患分野 12 時間 = 合計 30 時間 ）
学習方法	講 義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第 10 版

授業概要と目的
【 学習目的 】 各種疾患（小児、高齢者、妊産婦等を含む）の発症機序、病態、症状、所見、及び予後等について理解し、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。 【 授業概要 】 救急救命士として、新生児を含む大人とはちがう小児の特性・生理的特徴を理解し、大人とは異なる必要な救急疾患についての基礎的な知識を学ぶ。小児の場合は時間的な余裕がなく迅速な判断と処置が要求されるため、大人とは違い自分で詳細に説明できない小児には特に注意深い観察が必要性を学習する。 なお、医師として医療機関などで小児医学に関する臨床経験のある各々の講師が、その専門分野における経験を活かし授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期 (4月～9月)	「小児の特徴（総論）」 小児の生理学的特徴および成長に伴う形態・機能の変化について理解する。	「総 論」 救命士標準テキスト P.644 参照 ・小児の代表的救急疾患の好発年齢を説明できる。 ・成長に伴う形態の変化について説明できる。	伊藤 友理枝
2	前期 (4月～9月)	「小児救急の観察と評価」 発達による救急疾患の変化、小児の観察と評価について理解する。	「小児の症状の評価」 標準テキスト P.646 参照 ・小児に特有な疾患の観察要点、病歴聴取の要点について説明できる。	伊藤 友理枝
3	前期 (4月～9月)	「小児に特有な疾患（１）」 小児に特有な疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「熱性痙攣など」 標準テキスト P.649 参照 ・熱性痙攣および急性喉頭蓋炎の病態、症状、観察、処置について説明できる。	伊藤 友弥
4	前期 (4月～9月)	「小児に特有な疾患（２）」 小児に特有な疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「腸重積など」 標準テキスト P.653 参照 ・腸重積および川崎病の病態、症状、観察、処置について説明できる。	伊藤 友弥
5	前期 (4月～9月)	「小児に特有な疾患（３）」 小児に特有な疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「乳幼児突然死症候群」 テキスト P.655 参照 ・乳幼児突然死症候群の要因、症状、観察、対処について説明できる。	松永 英幸

6	前期 (4月～9月)	「小児に特有な疾患（４）」 救命士国家試験における小児に特有な疾患の疫学、病態、症候などについて理解する。	「被虐待児症候群」 テキスト P.655 参照 ・被虐待児症候群の要因、症状、観察、対処について説明できる。	松永 英幸
7	前期 (4月～9月)	「小児の事故予防」 小児の事故予防について理解する。	「小児の特徴と事故予防」 ・小児の特徴をふまえ、事故の危険因子について説明できる。	石川 祥一郎
8	前期 (4月～9月)	「演習」 救急救命士国家試験出題内容における小児に特有な疾患について理解する。	「小児に特有な疾患のまとめ」 ・小児に特有な疾患の概要について説明できる。	石川 祥一郎
9	前期 (4月～9月)	「新生児蘇生法（NCPR）」 救急現場における新生児蘇生の観察、処置について理解する。	「新生児蘇生アルゴリズム」 ・NCPR における初期処置およびその後のアルゴリズムについて説明できる。	池山 由紀
成績評価方法		筆記試験 小児に特有な疾患分野 60 点 + 妊娠・分娩と救急疾患分野 40 点 = 合計 100 点満点		
準備学習など		【 講師からのアドバス 】 小児と成人の相違点、小児の特性を理解する。		

学科・年次	救急救命科 2年次
科目名	疾病救急医学VI ― 妊娠・分娩と救急疾患 ― (Emergency Medicine VI ― Obstetrics & Gynecology ―)
担当者	川辺 恵美子
単位数 (時間数)	1 単位 (小児に特有な疾患分野 18 時間 + 妊娠・分娩と救急疾患分野 12 時間 = 合計 30 時間)
学習方法	講 義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第 10 版

授業概要と目的
【 学習目的 】 各種疾患（小児、高齢者、妊産婦等を含む）の発症機序、病態、症状、所見、及び予後等について理解し、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。 【 授業概要 】 産婦人科疾患の病態と治療について、医療者として理解しておかなければならない基本的な事項について習得することを目的に学習する。 1) 産婦人科疾患の大半を占める正常分娩の管理を理解する。 2) 異常妊娠・異常分娩の病態を理解し、管理を学ぶ。 なお、助産師として医療機関などで産婦人科医学・周産期医学に関する臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前 期 (4月～9月)	「妊娠の経過」 排卵から着床までの経過の概要について理解する。	「正常妊娠」 救命士標準テキスト P.665 参照 ・受精と着床について説明できる。 ・胎児附属物について説明できる。	川辺 恵美子
2	前 期 (4月～9月)	「妊娠の異常」 妊娠の異常の概念とそれぞれの病態、症候について理解する。	「流産・常位胎盤早期剥離」 テキスト P.667 参照 ・流産の種類とそれぞれの特徴について説明できる。 ・異所性妊娠の症状について説明できる。	川辺 恵美子
3	前 期 (4月～9月)	「正常分娩の経過」 正常分娩と主な疾患の病態、症候、対応について理解する。	「正常妊娠など」 テキスト P.665 参照 ・妊娠週数と分娩予定日の計算について説明できる。 ・妊娠による母体の変化について説明できる。	川辺 恵美子
4	前 期 (4月～9月)	「異常分娩」 異常分娩と主な疾患の病態、症候、対応について理解する。	「早産・弛緩出血など」 テキスト P.670 参照 ・早産の定義について説明できる。 ・弛緩出血時の応急処置について説明できる。	川辺 恵美子
5	前 期 (4月～9月)	「新生児の処置と管理」 新生児蘇生における観察、処置、管理について理解する。	「新生児蘇生 (NCPR)」 テキスト P.674 参照 ・新生児蘇生アルゴリズムに従った観察、処置について説明できる。	川辺 恵美子

6	前 期 (4月～9月)	「車中分娩介助など」 車中分娩における観察、処置、管理について理解する。	「分娩介助」 救命士標準テキスト P.670 参照 ・救急車内における分娩介助の手順について説明できる。	川辺 恵美子
成績評価方法		筆記試験 小児に特有な疾患分野 60 点 + <u>妊娠・分娩と救急疾患分野 40 点</u> = 合計 100 点満点		
準備学習など		【 講師からのアドバス 】 特になし		

学科・年次	救急救命科 2年次
科目名	外傷救急医学 IV (Trauma and Emergency Medicine IV)
担当者	城所 仁
単位数(時間数)	1単位(30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	教科書:救急救命士標準テキスト改訂第10版

授業概要と目的
【 学習目的 】 外傷の受傷機転、発生機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。 【 授業概要 】 妊婦、小児、高齢者の特徴をふまえた起こりやすい外傷、その取扱いについても知識を追加し、熱傷、化学損傷、電撃症、雷撃症、縊頸・絞頸、刺咬傷についても知識を広げ、その対応を学習する。 なお、医師として医療機関などで救急医学に関する臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期 (4月～9月)	「小児の外傷」 小児の外傷の疫学、受傷機転、現場活動について理解する。	「主な小児の外傷」 標準テキスト P.755 参照 ・乳幼児揺さぶられ症候群および肘内障の発生機序について説明できる。	城所 仁
2	前期 (4月～9月)	「高齢者の外傷」 高齢者の外傷の疫学、受傷機転、現場活動について理解する。	「主な高齢者の外傷」 標準テキスト P.757 参照 ・高齢者の受傷機転の評価における注意点について説明できる。	城所 仁
3	前期 (4月～9月)	「妊婦の外傷」 妊婦の外傷の疫学、受傷機転、現場活動について理解する。	「主な妊婦の外傷」 標準テキスト P.759 参照 ・妊婦の外傷時の評価・処置の注意点について説明できる。	城所 仁
4	前期 (4月～9月)	「熱 傷 (1)」 熱傷の疫学、受傷機転、分類、現場活動について理解する。	「熱傷の受傷機転と病態」 テキスト P.760 参照 ・気道熱傷の種類と気道熱傷を疑う所見について説明できる。	城所 仁
5	前期 (4月～9月)	「熱 傷 (2)」 熱傷の疫学、受傷機転、分類、現場活動について理解する。	「熱傷の評価と重症度分類」 テキスト P.762 参照 ・9の法則、小児の5の法則について説明できる。 ・アルツの基準より受傷熱傷について説明できる。	城所 仁
6	前期 (4月～9月)	「化学損傷 (1)」 化学損傷の疫学、受傷機転、現場活動について理解する。	「化学損傷の種類」 テキスト P.766 参照 ・フッ化水素酸による化学損傷の特徴について説明できる。	城所 仁

7	前期 (4月～9月)	「化学損傷（２）」 化学損傷の疫学、受傷機転、現場活動について理解する。	「化学損傷の現場活動」テキストP.769 参照 ・化学損傷における観察と処置の要点について説明できる。	城所 仁
8	前期 (4月～9月)	「電撃症・雷撃症（１）」 電撃症・雷撃症の疫学、受傷機転、現場活動について理解する。	「電撃症」テキストP.772 参照 ・電撃症における危険な病態について説明できる。	城所 仁
9	前期 (4月～9月)	「電撃症・雷撃症（２）」 電撃症・雷撃症の疫学、受傷機転、現場活動について理解する。	「雷撃症」テキストP.775 参照 ・雷撃症におけるトリアージの特徴について説明できる。	城所 仁
10	前期 (4月～9月)	「縊頸・絞頸」 縊頸・絞頸の疫学、受傷機転、現場活動について理解する。	「縊頸・絞頸の違い」テキストP.778 参照 ・縊死と絞死（扼死）の発生機序について説明できる。	城所 仁
11	前期 (4月～9月)	「刺咬症（傷）（１）」 刺咬症（傷）の疫学、受傷機転、現場活動について理解する。	「哺乳類による咬症」テキストP.781 参照 ・哺乳類による咬症の特徴と、観察・処置の要点について説明できる。	城所 仁
12	前期 (4月～9月)	「刺咬症（傷）（２）」 刺咬症（傷）の疫学、受傷機転、現場活動について理解する。	「爬虫類・節足動物による咬症」P.782 参照 ・爬虫類・節足動物による咬症の特徴と、観察・処置の要点について説明できる。	城所 仁
13	前期 (4月～9月)	「刺咬症（傷）（３）」 刺咬症（傷）の疫学、受傷機転、現場活動について理解する。	「海洋生物による刺咬症」テキストP.784 参照 ・海洋生物による刺咬症の特徴と、観察・処置の要点について説明できる。	城所 仁
14	前期 (4月～9月)	「総 括」 外傷時の現場活動での観察、処置、搬送について総合的に理解する。	「まとめ」 ・外傷の概念、分類、原因、病態、症候、救急現場活動について説明できる。	城所 仁
15	前期 (4月～9月)	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	城所 仁
成績評価方法		筆記試験（100点満点）によって評価する。		
準備学習など		【 講師からのアドバイス 】 知っている身近な幾つかの病気から知識を発展させるとよい。		

学科・年次	救急救命科 2年次
科目名	環境障害・急性中毒 ― 環境障害分野 ― （ Environmental Hazard and Toxicology ）
担当者	廣崎 英和
単位数（時間数）	1 単位（ 環境障害分野 18 時間 + 急性中毒分野 12 時間 = 合計 30 時間 ）
学習方法	講 義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第 10 版

授業概要と目的
【 学習目的 】 環境因子、中毒物質、放射線等による障害の発生機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。 【 授業概要 】 人は恒温動物あるが、その対応調整の仕組みについて学習する。 減圧症、高山病は基本的には圧力と酸素分圧の問題であるが、特殊な環境で起こる障害として特別の対処法を学習する。 なお、医師（医学博士）として医療機関などで救急医療に関する臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期 (4月～9月)	「溺 水」 溺水の危険因子、病態、症候、予後について理解する。	「溺水の危険因子」 標準テキスト P.812 参照 ・溺水の予後について説明できる。 ・溺水傷病者の観察と処置について説明できる。	廣崎 英和
2	前期 (4月～9月)	「熱中症」 熱中症の発生機序、分類、症候、予後について理解する。	「熱中症の発生機序」 標準テキスト P.816 参照 ・熱中症の発生機序について説明できる。 ・熱中症分類とその症状について説明できる。	廣崎 英和
3	前期 (4月～9月)	「偶発性低体温症」 低体温症の発生機序、病態、観察、処置について理解する。	「発生機序と病態生理」 標準テキスト P.821 参照 ・偶発性低体温症の発生機序と病態生理について説明できる。	廣崎 英和
4	前期 (4月～9月)	「異 物」 異物の危険因子、種類、観察、処置について理解する。	「気道の完全異物」 標準テキスト P.808 参照 ・気道の完全閉塞（窒息）および消化管異物の症状と処置について説明できる。	廣崎 英和
5	前期 (4月～9月)	「減圧障害」 減圧症の危険因子、病態、観察、処置について理解する。	「観察と処置の要点」 標準テキスト P.833 参照 ・減圧障害の病型と観察、処置について説明できる。	廣崎 英和

6	前期 (4月～9月)	「急性高山病」 高山病の危険因子、病態、観察、処置について理解する。	「観察と処置の要点」 標準テキスト P.833 参照 ・急性高山病の観察、処置について説明できる。	廣崎 英和
7	前期 (4月～9月)	「酸素欠乏症」 酸素欠乏症の危険因子、病態、症候、予後について理解する。	「観察と処置の要点」 標準テキスト P.836 参照 ・酸素欠乏症の症状と観察、処置について説明できる。	廣崎 英和
8	前期 (4月～9月)	「凍 傷」 凍傷の危険因子、病態、症候、予後について理解する。	「観察と処置の要点」 標準テキスト P.836 参照 ・凍傷の深度分類と観察、処置について説明できる。	廣崎 英和
9	前期 (4月～9月)	「まとめ」 環境障害時の現場活動での観察、処置、搬送について総合的に理解する。	「まとめ」 ・環境障害の概念、分類、原因、病態、症候、救急現場活動について説明できる。	廣崎 英和
成績評価方法		筆記試験 <u>環境障害分野 60 点</u> + 急性中毒分野 40 点 = 合計 100 点満点		
準備学習など		【 講師からのアドバス 】 環境障害によって生体機能の変化、病態生理を理解するように努めてほしい。		

学科・年次	救急救命科 2年次
科目名	環境障害・急性中毒 ― 急性中毒分野 ― （ Environmental Hazard and Toxicology ）
担当者	妹尾 洋
単位数（時間数）	1 単位（ 環境障害分野 18 時間 + 急性中毒分野 12 時間 = 合計 30 時間 ）
学習方法	講 義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第 10 版

授業概要と目的
【 学習目的 】 環境因子、中毒物質、放射線等による障害の発生機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。 【 授業概要 】 種々の薬剤、薬品が家庭でも職場でも多く存在する。取扱に注意しないと二次的被害が起こることもあり、注意が必要である。よく起こる事例を中心に各種薬剤の障害について学習する。 なお、医師（医学博士）として研究機関などで法医学（司法解剖）に関する臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期 (4月～9月)	「中毒総論(1)」 中毒物質の特徴を把握し、それらの随伴症状、観察、処置について理解する。	「中毒物質の種類と特徴」 テキスト P.788 参照 ・家庭用品で問い合わせの多い中毒物質について説明できる。	妹尾 洋
2	前期 (4月～9月)	「中毒総論(2)」 中毒物質の特徴を把握し、それらの随伴症状、観察、処置について理解する。	「中毒の判断など」 テキスト P.792 参照 ・縮瞳および散瞳を呈する急性中毒について説明できる。	妹尾 洋
3	前期 (4月～9月)	「中毒各論(1)」 急性中毒の随伴症状を把握し、それらの観察、処置について理解する。	「医薬品中毒」 標準テキスト P.798 参照 ・アスピリン中毒の症状と処置・観察の概要について説明できる。	妹尾 洋
4	前期 (4月～9月)	「中毒各論(2)」 急性中毒の随伴症状を把握し、それらの観察、処置について理解する。	「農薬・工業用品中毒」 テキスト P.798 参照 ・有機リン系中毒およびシアン物の症状と処置・観察の概要について説明できる。	妹尾 洋
5	前期 (4月～9月)	「中毒各論(3)」 急性中毒の随伴症状を把握し、それらの観察、処置について理解する。	「ガス・アルコール中毒」 テキスト P.800 参照 ・一酸化炭素中毒の症状と処置・観察の概要について説明できる。	妹尾 洋
6	前期 (4月～9月)	「中毒各論(4)」 急性中毒の随伴症状を把握し、それらの観察、処置について理解する。	「自然毒・家庭用品中毒」 テキスト P.804 参照 ・タバコ誤食の症状と処置・観察の概要について説明できる。	妹尾 洋

成績評価方法	筆記試験 環境障害分野 60 点 + <u>急性中毒分野 40 点</u> = 合計 100 点満点
準備学習など	【 講師からのアドバス 】 疾病が起こす生体機能の変化、病態生理を理解するように努めてほしい。

学科・年次	救急救命科 2年次
科目名	シミュレーション実習Ⅲ (Simulation Ⅲ) ―分娩介助―
担当者	川辺 恵美子
単位数(時間数)	7単位 (分娩介助 12時間 + 病院前救護活動 136時間 + 消防官スキルチェック 16時間 + 臨床実習事前教育 28時間 + 臨床実習残留期間等 123時間 = 315時間)
学習方法	実 習
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第10版

授業概要と目的
【 学習目的 】 修得した知識、技術を病院前救護において的確かつ安全に応用できる実践能力を身につけ、メディカルコントロールの重要性を確認し、傷病者に対する適切な接遇を習得し、医師の指示の下で病院前救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任感を養う。 【 授業概要 】 1) 救急隊員による分娩介助および周産期疾患の観察・処置の標準化されたガイドラインに準じたシミュレーション教育を学習する。 2) 救急隊員による乳幼児および小児に対する接遇方法を学習する。 なお、医師もしくは看護師などの医療従事者として医療機関などで救急医学に関する臨床経験のある各々の講師が、その専門分野における経験を活かし授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通 年 (4月～3月)	「BLSO 分娩介助 実践論」 救急現場における分娩介助の方法、注意事項などについて理解する。	「妊娠・分娩と救急疾患」 テキストP.670 参照 ・妊娠・分娩と救急疾患の観察、評価、鑑別について実施できる。	川辺 恵美子
2	通 年 (4月～3月)	「BLSO 分娩介助 実践論」 救急現場における分娩介助の方法、注意事項などについて理解する。	「妊娠・分娩と救急疾患」 テキストP.670 参照 ・妊娠・分娩と救急疾患の観察、評価、鑑別について実施できる。	川辺 恵美子
3	通 年 (4月～3月)	「BLSO 分娩介助 実践論」 救急現場における分娩介助の方法、注意事項などについて理解する。	「分娩介助」 テキストP.670 参照 ・正期産時の分娩介助を把握し、処置及び搬送法について実施できる。	川辺 恵美子
4	通 年 (4月～3月)	「BLSO 分娩介助 実践論」 救急現場における分娩介助の方法、注意事項などについて理解する。	「分娩介助」 テキストP.670 参照 ・正期産時の分娩介助を把握し、処置及び搬送法について実施できる。	川辺 恵美子
5	通 年 (4月～3月)	「BLSO 分娩介助 実践論」 救急現場における分娩介助の方法、注意事項などについて理解する。	「NCPR 新生児蘇生法」 テキストP.674 参照 ・NCPR プロトコルを把握し、新生児出生時の処置及び搬送法について実施できる。	川辺 恵美子

6	通 年 (4月～3月)	「BLSO 分娩介助 実践論」 救急現場における分娩介助の方法、注意事項などについて理解する。	「NCPR 新生児蘇生法」 テキスト P.674 参照 ・ NCPR プロトコルを把握し、新生児出生時の処置及び搬送法について実施できる。	川辺 恵美子
成績評価方法		救急技術発表会における実技試験（100 点満点）		
準備学習など		【 講師からのアドバイス 】 総合的な知識・技術を統合的に用いてシミュレーション実習に取り組むこと。		

学科・年次	救急救命科 2年次
科目名	シミュレーション実習Ⅲ (Simulation Ⅲ)－病院前救護活動－
担当者	石河 康司、大竹 宗也、柴尾 隆行、廣崎 英和、古谷 泰樹
単位数(時間数)	7単位(分娩介助12時間＋病院前救護活動136時間＋消防官スキルチェック16時間＋臨床実習事前教育28時間＋臨床実習残留期間等123時間＝315時間)
学習方法	実 習
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第10版 PSLSガイドブック2015、PCECガイドブック2016、PEMECガイドブック2023

授業概要と目的
【 学習目的 】 修得した知識、技術を病院前救護において的確かつ安全に応用できる実践能力を身につけ、メディカルコントロールの重要性を確認し、傷病者に対する適切な接遇を習得し、医師の指示の下で病院前救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任感を養う。 【 授業概要 】 1) 救急隊員による脳卒中の観察・処置の標準化されたガイドラインに準じたシミュレーション教育を学習する。 2) 救急隊員による意識障害の観察・処置の標準化されたガイドラインに準じたシミュレーション教育を学習する。 3) 救急隊員による疾病の観察・処置の標準化されたガイドラインに準じたシミュレーション教育を学習する。 4) 救急隊員による集団災害時の観察・処置の標準化されたガイドラインに準じたシミュレーション教育を学習する。 5) 救急救命士養成課程における臨床実習の事前研修として必要となる観察と評価などを学習する。 6) 救急現場における問診情報、観察所見より臨床推論について学習する。 7) その他(規律訓練などの実技指導、乳幼児の心肺蘇生法などの実技指導) なお、救急救命士として消防機関などで救急業務に関する現場経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通 年 (4月～3月)	「規律訓練の補助指導(1)」 気をつけなどの消防機関で行われている各個訓練の指導方法について理解する。	「各個訓練」 ・「気をつけ」姿勢のポイントをふまえて指導できる。 ・「整列休め」姿勢のポイントをふまえて指導できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
2	通 年 (4月～3月)	「心肺停止前プロトコル」 愛知県を主体とする心肺停止前プロトコルを学習し、病院前救護活動を理解する。	「心肺停止前プロトコル」 ・心肺停止前と心肺停止後のプロトコルの違いについて説明できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
3	通 年 (4月～3月)	「PEMEC 総論(1)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、臨床推論、緊急度判定について理解する。	「PEMEC 総 論」PEMECガイドブック ・PEMECとJPTECの違いについて理解し、内因性救護活動における初期評価などが実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷

4	通 年 (4月～3月)	「PEMEC 総論(2)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、臨床推論、緊急度判定について理解する。	「PEMEC 問 診」PEMEC ガイドブック ・内因性救護活動における問診(既往歴・現病歴など)が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
5	通 年 (4月～3月)	「PSLS 実践論(1)」 脳梗塞時の病院前救護活動に関する観察、問診、臨床推論などについて理解する。	「PSLS CPSS」PSLS ガイドブック ・脳卒中時の病院前救護活動における CPSS が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
6	通 年 (4月～3月)	「PSLS 実践論(2)」 脳梗塞時の病院前救護活動に関する観察、問診、臨床推論などについて理解する。	「PSLS KPSS」PSLS ガイドブック ・脳卒中時の病院前救護活動における KPSS が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
7	通 年 (4月～3月)	「PSLS 実践論(3)」 脳梗塞時の病院前救護活動に関する観察、問診、臨床推論などについて理解する。	「PSLS 脳梗塞」PSLS ガイドブック ・脳卒中時における問診、臨床推論、緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
8	通 年 (4月～3月)	「PSLS 実践論(4)」 脳梗塞時の病院前救護活動に関する観察、問診、臨床推論などについて理解する。	「PSLS 脳梗塞」PSLS ガイドブック ・脳卒中時における問診、臨床推論、緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
9	通 年 (4月～3月)	「PCEC 総論」 意識障害時の病院前救護活動に関する問診、臨床推論などについて理解する。	「PCEC 血糖測定」PCEC ガイドブック ・意識障害時の病院前救護活動における適応に応じた血糖測定が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
10	通 年 (4月～3月)	「アドレナリン自己注射製剤」 アナフィラキシーショック時の病院前救護活動に関する問診、臨床推論などについて理解する。	「エピペン®」PEMEC ガイドブック ・アナフィラキシーショック時の病院前救護活動における適応に応じたエピペンが実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
11	通 年 (4月～3月)	「PSLS 実践論(5)」 脳梗塞時の病院前救護活動に関する観察、問診、臨床推論などについて理解する。	「PSLS 脳卒中」PSLS ガイドブック ・脳卒中時における問診、臨床推論、緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
12	通 年 (4月～3月)	「PCEC 実践論」 意識障害(低血糖)時の病院前救護活動に関する問診、臨床推論などについて理解する	「PCEC ブドウ糖投与」PCEC ガイドブック ・低血糖時の病院前救護活動における適応に応じた静脈路確保およびブドウ糖投与が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
13	通 年 (4月～3月)	「PEMEC 実践論(3)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、臨床推論、緊急度判定について理解する。	「PEMEC 胸 痛」PEMEC ガイドブック ・胸痛傷病者における問診、臨床推論、緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
14	通 年 (4月～3月)	「PEMEC 実践論(4)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、臨床推論、緊急度判定について理解する。	「PEMEC 腰 痛」PEMEC ガイドブック ・腰痛傷病者における問診、臨床推論、緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
15	通 年 (4月～3月)	「PEMEC 実践論(5)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、臨床推論、緊急度判定について理解する。	「PEMEC アナフィラキシーショック」PEMEC ガイドブック ・アナフィラキシー発症時における問診、臨床推論、緊急度判定とともに病院前救護活動(エピペン)が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
16	通 年 (4月～3月)	「PEMEC 実践論(6)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、臨床推論、緊急度判定について理解する。	「PEMEC アナフィラキシーショック」PEMEC ガイドブック ・アナフィラキシー発症時における問診、臨床推論、緊急度判定とともに病院前救護活動(静脈路確保)が実施できる	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷

17	通 年 (4月～3月)	「PEMEC 実践論 (7)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、臨床推論、緊急度判定について理解する。	「PEMEC 低体温症」 PEMEC ガイドブック ・低体温症傷病者における問診、臨床推論、緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
18	通 年 (4月～3月)	「PEMEC 実践論 (8)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、臨床推論、緊急度判定について理解する。	「PEMEC 熱中症」 PEMEC ガイドブック ・熱中症傷病者における問診、臨床推論、緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
19	通 年 (4月～3月)	「PEMEC 実践論 (9)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、臨床推論、緊急度判定について理解する。	「PEMEC 吐血・喀血」 PEMEC ガイドブック ・吐血、喀血傷病者における問診、臨床推論、緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
20	通 年 (4月～3月)	「PEMEC 実践論 (10)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、臨床推論、緊急度判定について理解する。	「PEMEC 吐血・喀血」 PEMEC ガイドブック ・吐血、喀血傷病者における問診、臨床推論、緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
21	通 年 (4月～3月)	「総合シミュレーション論 (1)」 特定行為、PEMEC などを用いて観察、問診、処置、臨床推論について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用いて観察、問診、処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
22	通 年 (4月～3月)	「総合シミュレーション論 (2)」 特定行為、PEMEC などを用いて観察、問診、処置、臨床推論について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用いて観察、問診、処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
23	通 年 (4月～3月)	「総合シミュレーション論 (3)」 特定行為、PEMEC などを用いて観察、問診、処置、臨床推論について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用いて観察、問診、処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
24	通 年 (4月～3月)	「総合シミュレーション論 (4)」 特定行為、PEMEC などを用いて観察、問診、処置、臨床推論について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用いて観察、問診、処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
25	通 年 (4月～3月)	「総合シミュレーション論 (5)」 特定行為、PEMEC などを用いて観察、問診、処置、臨床推論について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用いて観察、問診、処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
26	通 年 (4月～3月)	「総合シミュレーション論 (6)」 特定行為、PEMEC などを用いて観察、問診、処置、臨床推論について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用いて観察、問診、処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
27	通 年 (4月～3月)	「総合シミュレーション論 (7)」 特定行為、PEMEC などを用いて観察、問診、処置、臨床推論について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用いて観察、問診、処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
28	通 年 (4月～3月)	「総合シミュレーション論 (8)」 特定行為、PEMEC などを用いて観察、問診、処置、臨床推論について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用いて観察、問診、処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
29	通 年 (4月～3月)	「総合シミュレーション論 (9)」 特定行為、PEMEC などを用いて観察、問診、処置、臨床推論について理解する。	「救急現場活動の症例検討」 ・救急現場のシミュレーション実習に対して症例検討を実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷

30	通 年 (4月～3月)	「総合シミュレーション論(10)」 特定行為、PEMEC などを用いて観察、問診、処置、臨床推論について理解する。	「救急現場活動の症例検討」 ・救急現場のシミュレーション実習に対して症例検討を実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
31	通 年 (4月～3月)	「PSLS 実践論 (5)」 脳梗塞時の病院前救護活動に関する観察、問診、臨床推論などについて理解する。	「PSLS ELVO スクリーン」 PSLS ガイドブック ・ELVO スクリーンを用いて脳卒中の評価とともに病院前救護活動が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
32	通 年 (4月～3月)	「PSLS 実践論 (6)」 脳梗塞時の病院前救護活動に関する観察、問診、臨床推論などについて理解する。	「PSLS ELVO スクリーン」 PSLS ガイドブック ・ELVO スクリーンを用いて脳卒中の評価とともに病院前救護活動が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
33	通 年 (4月～3月)	「総合シミュレーション論(11)」 特定行為、PEMEC、JPTEC を用いて観察、問診、処置、臨床推論について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用いて観察、問診、処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
34	通 年 (4月～3月)	「総合シミュレーション論(12)」 特定行為、PEMEC、JPTEC を用いて観察、問診、処置、臨床推論について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用いて観察、問診、処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
35	通 年 (4月～3月)	「総合シミュレーション論(13)」 特定行為、PEMEC、JPTEC を用いて観察、問診、処置、臨床推論について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用いて観察、問診、処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
36	通 年 (4月～3月)	「総合シミュレーション論(14)」 特定行為、PEMEC、JPTEC を用いて観察、問診、処置、臨床推論について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用いて観察、問診、処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
37	通 年 (4月～3月)	「総合シミュレーション論(15)」 特定行為、PEMEC、JPTEC を用いて観察、問診、処置、臨床推論について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用いて観察、問診、処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
38	通 年 (4月～3月)	「総合シミュレーション論(16)」 特定行為、PEMEC、JPTEC を用いて観察、問診、処置、臨床推論について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用いて観察、問診、処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
39	通 年 (4月～3月)	「総合シミュレーション論(17)」 特定行為、PEMEC、JPTEC を用いて観察、問診、処置、臨床推論について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用いて観察、問診、処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
40	通 年 (4月～3月)	「総合シミュレーション論(18)」 特定行為、PEMEC、JPTEC を用いて観察、問診、処置、臨床推論について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用いて観察、問診、処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
41	通 年 (4月～3月)	「総合シミュレーション論(19)」 特定行為、PEMEC、JPTEC を用いて観察、問診、処置、臨床推論について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用いて観察、問診、処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
42	通 年 (4月～3月)	「総合シミュレーション論(10)」 特定行為、PEMEC、JPTEC を用いて観察、問診、処置、臨床推論について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用いて観察、問診、処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷

43	通 年 (4月～3月)	「総合シミュレーション論(21)」 特定行為、PEMEC、JPTEC を用いて観察、 問診、処置、臨床推論について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用い て観察、問診、処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
44	通 年 (4月～3月)	「総合シミュレーション論(22)」 特定行為、PEMEC、JPTEC を用いて観察、 問診、処置、臨床推論について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用い て観察、問診、処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
45	通 年 (4月～3月)	「総合シミュレーション論(23)」 特定行為、PEMEC、JPTEC を用いて観察、 問診、処置、臨床推論について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用い て観察、問診、処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
46	通 年 (4月～3月)	「総合シミュレーション論(24)」 特定行為、PEMEC、JPTEC を用いて観察、 問診、処置、臨床推論について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用い て観察、問診、処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
47	通 年 (4月～3月)	「総合シミュレーション論(25)」 特定行為、PEMEC、JPTEC を用いて観察、 問診、処置、臨床推論について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用い て観察、問診、処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
48	通 年 (4月～3月)	「総合シミュレーション論(26)」 特定行為、PEMEC、JPTEC を用いて観察、 問診、処置、臨床推論について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用い て観察、問診、処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
49	通 年 (4月～3月)	「総合シミュレーション論(27)」 特定行為、PEMEC、JPTEC を用いて観察、 問診、処置、臨床推論について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用い て観察、問診、処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
50	通 年 (4月～3月)	「総合シミュレーション論(28)」 特定行為、PEMEC、JPTEC を用いて観察、 問診、処置、臨床推論について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用い て観察、問診、処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
51	通 年 (4月～3月)	「総合シミュレーション論(29)」 特定行為、PEMEC、JPTEC を用いて観察、 問診、処置、臨床推論について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用い て観察、問診、処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
52	通 年 (4月～3月)	「総合シミュレーション論(30)」 特定行為、PEMEC、JPTEC を用いて観察、 問診、処置、臨床推論について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用い て観察、問診、処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
53	通 年 (4月～3月)	「総合シミュレーション論(31)」 特定行為、PEMEC、JPTEC を用いて観察、 問診、処置、臨床推論について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用い て観察、問診、処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
54	通 年 (4月～3月)	「総合シミュレーション論(32)」 特定行為、PEMEC、JPTEC を用いて観察、 問診、処置、臨床推論について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用い て観察、問診、処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
55	通 年 (4月～3月)	「SMR(脊椎運動制限)教育」 消防職員に対して SMR の目的、適応、注 意点の指導内容について理解する。	「1年生への指導普及」 ・バックボードなどを用いた SMR (脊椎運動制限) の 目的、適応について説明できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷

56	通 年 (4月～3月)	「SMR(脊椎運動制限)教育」 消防職員に対して SMR の目的、適応、注意点の指導内容について理解する。	「1 年生への指導普及」 ・バックボードなどを用いた SMR（脊椎運動制限）の目的、適応について説明できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
57	通 年 (4月～3月)	「スチューデントラリートレーニング」 特定行為、PEMEC、JPTEC を用いて観察、問診、処置、臨床推論について理解する。	「総合的な病院前救護活動」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用いて観察、問診、処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
58	通 年 (4月～3月)	「スチューデントラリートレーニング」 特定行為、PEMEC、JPTEC を用いて観察、問診、処置、臨床推論について理解する。	「総合的な病院前救護活動」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用いて観察、問診、処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
59	通 年 (4月～3月)	「スチューデントラリートレーニング」 特定行為、PEMEC、JPTEC を用いて観察、問診、処置、臨床推論について理解する。	「総合的な病院前救護活動」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用いて観察、問診、処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
60	通 年 (4月～3月)	「スチューデントラリートレーニング」 特定行為、PEMEC、JPTEC を用いて観察、問診、処置、臨床推論について理解する。	「総合的な病院前救護活動」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用いて観察、問診、処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
61	通 年 (4月～3月)	「スチューデントラリートレーニング」 特定行為、PEMEC、JPTEC を用いて観察、問診、処置、臨床推論について理解する。	「総合的な病院前救護活動」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用いて観察、問診、処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
62	通 年 (4月～3月)	「スチューデントラリートレーニング」 特定行為、PEMEC、JPTEC を用いて観察、問診、処置、臨床推論について理解する。	「総合的な病院前救護活動」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用いて観察、問診、処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
63	通 年 (4月～3月)	「スチューデントラリー」 救急現場を想定した活動を実体験することで洞察力及び観察力について理解する。	「スチューデントラリー」 ・仮想救急隊を構成し、各ブースで与えられた想定に対して協力のもとで適切な救護活動が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
64	通 年 (4月～3月)	「スチューデントラリー」 救急現場を想定した活動を実体験することで洞察力及び観察力について理解する。	「スチューデントラリー」 ・仮想救急隊を構成し、各ブースで与えられた想定に対して協力のもとで適切な救護活動が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
65	通 年 (4月～3月)	「スチューデントラリー」 救急現場を想定した活動を実体験することで洞察力及び観察力について理解する。	「スチューデントラリー」 ・仮想救急隊を構成し、各ブースで与えられた想定に対して協力のもとで適切な救護活動が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
66	通 年 (4月～3月)	「スチューデントラリー」 救急現場を想定した活動を実体験することで洞察力及び観察力について理解する。	「スチューデントラリー」 ・仮想救急隊を構成し、各ブースで与えられた想定に対して協力のもとで適切な救護活動が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
67	通 年 (4月～3月)	「スチューデントラリー・フィードバック」 救急現場を想定した活動を実体験することで洞察力及び観察力について理解する。	「スチューデントラリー・フィードバック」 ・スチューデントラリーの实体験から得られた成果・反省を振り返ることが実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
68	通 年 (4月～3月)	「スチューデントラリー・フィードバック」 救急現場を想定した活動を実体験することで洞察力及び観察力について理解する。	「スチューデントラリー・フィードバック」 ・スチューデントラリーの实体験から得られた成果・反省を振り返ることが実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷

成績評価 方法	各種シミュレーションスキルチェック【実技試験】（合計 100 点満点）
準備学習 など	【 講師からのアドバス 】 総合的な知識・技術を統合的に用いてシミュレーション実習に取り組むこと。

学科・年次	救急救命科 2年次
科目名	シミュレーション実習Ⅲ (Simulation Ⅲ)－消防官スキルチェック
担当者	石河 康司、大竹 宗也、柴尾 隆行、廣崎 英和、古谷 泰樹
単位数（時間数）	7 単位（ 分娩介助 12 時間 + 病院前救護活動 136 時間 + 消防官スキルチェック 16 時間 + 臨床実習事前教育 28 時間 + 臨床実習残留期間等 123 時間 = 315 時間 ）
学習方法	実 習
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第 10 版 PSLS ガイドブック 2015、PCEC ガイドブック 2016、PEMEC ガイドブック 2023

授業概要と目的
【 学習目的 】 修得した知識、技術を病院前救護において的確かつ安全に応用できる実践能力を身につけ、メディカルコントロールの重要性を確認し、傷病者に対する適切な接遇を習得し、医師の指示の下で病院前救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任感を養う。 【 授業概要 】 救急救命士の主な就職先である消防機関における消防官としての教養および態度について評価する。主に規律訓練などの各個訓練動作（「気を付け」「敬礼」「休め」など）から整列からの服装点検などを実技試験として確認する。 なお、救急救命士として消防機関などで救急業務に関する現場経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通 年 (4月～3月)	「消防官対応スキルチェック1」 消防官に求められる資質について評価する。	「消防官対応スキルチェック」 ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
2	通 年 (4月～3月)	「消防官対応スキルチェック2」 消防官に求められる資質について評価する。	「消防官対応スキルチェック」 ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
3	通 年 (4月～3月)	「消防官対応スキルチェック3」 消防官に求められる資質について評価する。	「消防官対応スキルチェック」 ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
4	通 年 (4月～3月)	「消防官対応スキルチェック4」 消防官に求められる資質について評価する。	「消防官対応スキルチェック」 ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
5	通 年 (4月～3月)	「消防官対応スキルチェック5」 消防官に求められる資質について評価する。	「消防官対応スキルチェック」 ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷

6	通 年 (4月～3月)	「消防官対応スキルチェック6」 消防官に求められる資質について評価する。	「消防官対応スキルチェック」 ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
7	通 年 (4月～3月)	「消防官対応スキルチェック7」 消防官に求められる資質について評価する。	「消防官対応スキルチェック」 ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
8	通 年 (4月～3月)	「消防官対応スキルチェック8」 消防官に求められる資質について評価する。	「消防官対応スキルチェック」 ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎 古 谷
成績評価 方法	各種シミュレーションスキルチェック【実技試験】(合計 100 点満点)			
準備学習 など	【 講師からのアドバイス 】 総合的な知識・技術を統合的に用いてシミュレーション実習に取り組むこと。			

学科・年次	救急救命科 2年次
科目名	シミュレーション実習Ⅲ（SimulationⅢ）－臨床実習事前教育－
担当者	大野 健二
単位数（時間数）	7単位（分娩介助12時間＋病院前救護活動136時間＋消防官スキルチェック16時間＋臨床実習事前教育28時間＋臨床実習残留期間等123時間＝315時間）
学習方法	実習
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第10版 PSLSガイドブック2015、PCECガイドブック2016、PEMECガイドブック2023

授業概要と目的
【 学習目的 】 修得した知識、技術を病院前救護において的確かつ安全に応用できる実践能力を身につけ、メディカルコントロールの重要性を確認し、傷病者に対する適切な接遇を習得し、医師の指示の下で病院前救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任感を養う。 【 授業概要 】 近年、医療機関に勤務する院内救急救命士の教育も兼ねて、臨床実習時に求められる「臨床実習時の心得」をはじめとする院内救急救命士の教育内容である「感染予防」「医療安全」を事前教育として学習し、医療機関における臨床実習及び病院前医療・病院内医療（救急外来など）の業務に対して理解する。 なお、救急救命士として消防機関などで救急業務に関する現場経験のある講師（「医療機関に所属する救急救命士に対する研修の講師となる人材のための講習会」修了者）が、その経験を活かし授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通 年 (4月～3月)	「臨床実習事前研修(1)」 臨床実習及び院内救命士として必要となる知識・技術の基礎について理解する。	「臨床実習の心得」 ・臨床実習や医療機関で勤務する救命士に求められる心得について理解できる。	大野 健二
2	通 年 (4月～3月)	「臨床実習事前研修(2)」 臨床実習及び院内救命士として必要となる知識・技術の基礎について理解する。	「臨床実習オリエンテーション」 ・臨床実習における時間の計算方法や実習記録に関するオリエンテーションの内容を理解できる。	大野 健二
3	通 年 (4月～3月)	「臨床実習事前研修(3)」 臨床実習及び院内救命士として必要となる知識・技術の基礎について理解する。	「標準予防策（感染予防）」 ・手指消毒及びプラスチック手袋の脱着が実施できる。 ・清潔操作を理解し、資器材の準備が実施できる。	大野 健二
4	通 年 (4月～3月)	「臨床実習事前研修(4)」 臨床実習及び院内救命士として必要となる知識・技術の基礎について理解する。	「標準予防策（感染予防）」 ・血液などの汚染物処理、環境消毒が実施できる。 ・感染物などの医療廃棄処分が適切に実施できる。	大野 健二
5	通 年 (4月～3月)	「臨床実習事前研修(5)」 臨床実習及び院内救命士として必要となる知識・技術の基礎について理解する。	「医療安全（中央配管など）」 ・中央配管を用いた酸素投与・管理が実施できる。 ・酸素ポンプを用いた酸素投与・管理が実施できる。	大野 健二

6	通 年 (4月～3月)	「臨床実習事前研修（6）」 臨床実習及び院内救命士として必要となる 知識・技術の基礎について理解する。	「医療安全（放射線検査と管理）」 ・放射線検査などの目的、管理、注意点を把握し、安全管理（遮蔽・距離・時間）が実施できる。	大野 健二
7	通 年 (4月～3月)	「臨床実習事前研修（7）」 臨床実習及び院内救命士として必要となる 知識・技術の基礎について理解する。	「医療安全（医薬品の管理）」 ・毒薬・劇薬の表示、管理方法を理解し、安全管理（必要に応じた施錠管理など）が実施できる。	大野 健二
8	通 年 (4月～3月)	「臨床実習事前研修（8）」 臨床実習及び院内救命士として必要となる 知識・技術の基礎について理解する。	「医療安全（医薬品の管理）」 ・麻薬の表示、管理方法を理解し、安全管理（必要に応じた施錠管理など）が説明できる。	大野 健二
9	通 年 (4月～3月)	「臨床実習事前研修（9）」 臨床実習及び院内救命士として必要となる 知識・技術の基礎について理解する。	「バイタルサインの測定（1）」 ・模擬傷病者を用いて意識レベルなどのバイタルサインの測定が実施できる。	大野 健二
10	通 年 (4月～3月)	「臨床実習事前研修（10）」 臨床実習及び院内救命士として必要となる 知識・技術の基礎について理解する。	「バイタルサインの測定（2）」 ・模擬傷病者を用いて呼吸音聴診などのフィジカルサインの聴取が実施できる。	大野 健二
11	通 年 (4月～3月)	「臨床実習事前研修（11）」 臨床実習及び院内救命士として必要となる 知識・技術の基礎について理解する。	「傷病者の記録スキル」 ・医療機関における傷病者の観察と評価の記録、カルテなどの記録（実習記録を含む）が実施できる。	大野 健二
12	通 年 (4月～3月)	「臨床実習事前研修（12）」 臨床実習及び院内救命士として必要となる 知識・技術の基礎について理解する。	「検証・統計管理スキル」 ・症例検討などの検証時の情報収集・統計、記録の書き方、傷病者への配慮などが実施できる。	大野 健二
13	通 年 (4月～3月)	「臨床実習事前研修・実技試験」 臨床実習及び院内救命士として必要となる 知識・技術の基礎について評価する。	「観察と評価（実技試験）」 ・救急車到着後の医療機関で行われる医療スタッフによる観察と評価などについて実施できる。	大野 健二
14	通 年 (4月～3月)	「臨床実習事前研修・筆記試験」 臨床実習及び院内救命士として必要となる 知識・技術の基礎について評価する。	「観察と評価（筆記試験）」 ・医療機関で行われる医療スタッフに求められる感染予防や医療安全について動画から説明できる。	大野 健二
成績評価 方法	臨床実習に関する知識（感染予防・医療安全）を筆記試験（50点満点）して、意識レベル・呼吸数測定・呼吸音聴診・脈拍数測定・血圧測定などのバイタルサインの測定を実技試験（50点満点）として合計100点満点とした評価とする。			
準備学習 など	【 講師からのアドバイス 】 総合的な知識・技術を統合的に用いてシミュレーション実習に取り組むこと。			

学科・年次	救急救命科 2年次
科目名	シミュレーション実習Ⅲ (Simulation Ⅲ)－臨床実習残留期間－
担当者	大野 健二
単位数(時間数)	7単位(分娩介助12時間＋病院前救護活動136時間＋消防官スキルチェック16時間＋臨床実習事前教育28時間＋臨床実習残留期間等123時間＝315時間)
学習方法	実 習
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第10版 PSLSガイドブック2015、PCECガイドブック2016、PEMECガイドブック2023

授業概要と目的
【 学習目的 】 修得した知識、技術を病院前救護において的確かつ安全に応用できる実践能力を身につけ、メディカルコントロールの重要性を確認し、傷病者に対する適切な接遇を習得し、医師の指示の下で病院前救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任感を養う。 なお臨床実習残留期間中に実施するために前期日程および後期日程の両方の日程を掲示し、それぞれに対して同様の実習を行う。また必要に応じて症例検討を行い、標準化したガイドラインに対する知識(症候と病態生理学など)の補充を図り、これまで以上にシミュレーション活動を円滑的に行う。 【 授業概要 】 1) 救急隊員による脳卒中の観察・処置の標準化されたガイドラインに準じたシミュレーション教育を学習する。 2) 救急隊員による意識障害の観察・処置の標準化されたガイドラインに準じたシミュレーション教育を学習する。 3) 救急隊員による疾病の観察・処置の標準化されたガイドラインに準じたシミュレーション教育を学習する。 4) 救急救命士養成課程における臨床実習の事前研修として必要となる観察と評価などを学習する。 5) 救急現場における問診情報、観察所見より臨床推論について学習する。 6) その他(規律訓練などの実技指導、乳幼児の心肺蘇生法などの実技指導) なお、救急救命士として消防機関などで救急業務に関する現場経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
【 注 意 事 項 】 1コマ～54コマは臨床実習期間中の学内残留学生を対象としたシミュレーション実習となる。				
1	通 年 (4月～3月)	「PEMEC 実践論(1)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、臨床推論、緊急度判定について理解する。	「社会保障・社会福祉スキルチェック」 ・医療保険、生活保護法などを理解し、社会保障を考慮した病院前救護活動が実施できる。	大野 健二
2	通 年 (4月～3月)	「PEMEC 実践論(2)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、臨床推論、緊急度判定について理解する。	「社会保障・社会福祉フィードバック」 ・医療保険、生活保護法などを理解し、社会保障を考慮した病院前救護活動が実施できる。	大野 健二

3	通 年 (4月～3月)	「PEMEC 実践論 (3)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、 臨床推論、緊急度判定について理解する。	「社会保障・社会福祉スキルチェック」 ・医療保険、生活保護法などを理解し、社会保障を考慮 した病院前救護活動が実施できる。	大野 健二
4	通 年 (4月～3月)	「PEMEC 実践論 (4)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、 臨床推論、緊急度判定について理解する。	「処置各論スキルチェック」 ・基本的な処置から特定行為までディフィカルトエア ウェイなどの緊急時の対応が実施できる。	大野 健二
5	通 年 (4月～3月)	「PEMEC 実践論 (5)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、 臨床推論、緊急度判定について理解する。	「処置各論フィートバック」 ・基本的な処置から特定行為までディフィカルトエア ウェイなどの緊急時の対応が実施できる。	大野 健二
6	通 年 (4月～3月)	「PEMEC 実践論 (6)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、 臨床推論、緊急度判定について理解する。	「処置各論スキルチェック」 ・基本的な処置から特定行為までディフィカルトエア ウェイなどの緊急時の対応が実施できる。	大野 健二
7	通 年 (4月～3月)	「PEMEC 実践論 (7)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、 臨床推論、緊急度判定について理解する。	「処置各論スキルチェック」 ・メディアカルコントロールなどを考慮した医療機関 の選定及び救急車内活動が判断・実施できる。	大野 健二
8	通 年 (4月～3月)	「PEMEC 実践論 (8)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、 臨床推論、緊急度判定について理解する。	「処置各論フィートバック」 ・メディアカルコントロールなどを考慮した医療機関 の選定及び救急車内活動が判断・実施できる。	大野 健二
9	通 年 (4月～3月)	「PEMEC 実践論 (9)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、 臨床推論、緊急度判定について理解する。	「処置各論スキルチェック」 ・メディアカルコントロールなどを考慮した医療機関 の選定及び救急車内活動が判断・実施できる。	大野 健二
10	通 年 (4月～3月)	「PEMEC 実践論 (10)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、 臨床推論、緊急度判定について理解する。	「PEMEC 呼吸不全スキルチェック」 ・呼吸不全の傷病者における問診、臨床推論、緊急度判 定とともに病院前救護活動が実施できる。	大野 健二
11	通 年 (4月～3月)	「PEMEC 実践論 (11)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、 臨床推論、緊急度判定について理解する。	「PEMEC 呼吸不全フィートバック」 ・呼吸不全の傷病者における問診、臨床推論、緊急度判 定とともに病院前救護活動が実施できる。	大野 健二
12	通 年 (4月～3月)	「PEMEC 実践論 (12)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、 臨床推論、緊急度判定について理解する。	「PEMEC 呼吸不全スキルチェック」 ・呼吸不全の傷病者における問診、臨床推論、緊急度判 定とともに病院前救護活動が実施できる。	大野 健二
13	通 年 (4月～3月)	「PEMEC 実践論 (13)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、 臨床推論、緊急度判定について理解する。	「PEMEC 循環不全スキルチェック」 ・循環不全の傷病者における問診、臨床推論、緊急度判 定とともに病院前救護活動が実施できる。	大野 健二
14	通 年 (4月～3月)	「PEMEC 実践論 (14)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、 臨床推論、緊急度判定について理解する。	「PEMEC 循環不全フィートバック」 ・循環不全の傷病者における問診、臨床推論、緊急度判 定とともに病院前救護活動が実施できる。	大野 健二
15	通 年 (4月～3月)	「PEMEC 実践論 (15)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、 臨床推論、緊急度判定について理解する。	「PEMEC 循環不全スキルチェック」 ・循環不全の傷病者における問診、臨床推論、緊急度判 定とともに病院前救護活動が実施できる。	大野 健二

16	通 年 (4月～3月)	「PEMEC 実践論 (16)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、 臨床推論、緊急度判定について理解する。	「PEMEC 心肺停止スキルチェック」 ・心肺停止の傷病者における問診、臨床推論、緊急度判 定とともに病院前救護活動が実施できる。	大野 健二
17	通 年 (4月～3月)	「PEMEC 実践論 (17)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、 臨床推論、緊急度判定について理解する。	「PEMEC 心肺停止フィードバック」 ・心肺停止の傷病者における問診、臨床推論、緊急度判 定とともに病院前救護活動が実施できる。	大野 健二
18	通 年 (4月～3月)	「PEMEC 実践論 (18)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、 臨床推論、緊急度判定について理解する。	「PEMEC 心肺停止スキルチェック」 ・心肺停止の傷病者における問診、臨床推論、緊急度判 定とともに病院前救護活動が実施できる。	大野 健二
19	通 年 (4月～3月)	「PEMEC 実践論 (19)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、 臨床推論、緊急度判定について理解する。	「PEMEC 総合病態スキルチェック」 ・病態に異常を来した傷病者における問診、臨床推論、 緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	大野 健二
20	通 年 (4月～3月)	「PEMEC 実践論 (20)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、 臨床推論、緊急度判定について理解する。	「PEMEC 総合病態フィードバック」 ・病態に異常を来した傷病者における問診、臨床推論、 緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	大野 健二
21	通 年 (4月～3月)	「PEMEC 実践論 (21)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、 臨床推論、緊急度判定について理解する。	「PEMEC 総合病態スキルチェック」 ・病態に異常を来した傷病者における問診、臨床推論、 緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	大野 健二
22	通 年 (4月～3月)	「PEMEC 実践論 (22)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、 臨床推論、緊急度判定について理解する。	「PEMEC 意識障害スキルチェック」 ・意識障害・めまいの傷病者における問診、臨床推論、 緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	大野 健二
23	通 年 (4月～3月)	「PEMEC 実践論 (23)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、 臨床推論、緊急度判定について理解する。	「PEMEC 意識障害フィードバック」 ・意識障害・めまいの傷病者における問診、臨床推論、 緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	大野 健二
24	通 年 (4月～3月)	「PEMEC 実践論 (24)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、 臨床推論、緊急度判定について理解する。	「PEMEC 意識障害スキルチェック」 ・意識障害・めまいの傷病者における問診、臨床推論、 緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	大野 健二
25	通 年 (4月～3月)	「PEMEC 実践論 (25)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、 臨床推論、緊急度判定について理解する。	「PEMEC 運動障害スキルチェック」 ・運動障害・痙攣の傷病者における問診、臨床推論、緊 急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	大野 健二
26	通 年 (4月～3月)	「PEMEC 実践論 (26)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、 臨床推論、緊急度判定について理解する。	「PEMEC 運動障害フィードバック」 ・運動障害・痙攣の傷病者における問診、臨床推論、緊 急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	大野 健二
27	通 年 (4月～3月)	「PEMEC 実践論 (27)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、 臨床推論、緊急度判定について理解する。	「PEMEC 運動障害スキルチェック」 ・運動障害・痙攣の傷病者における問診、臨床推論、緊 急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	大野 健二
28	通 年 (4月～3月)	「PEMEC 実践論 (28)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、 臨床推論、緊急度判定について理解する。	「PEMEC 総合症候 I スキルチェック」 ・症候に異常を来した傷病者における問診、臨床推論、 緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	大野 健二

29	通 年 (4月～3月)	「PEMEC 実践論 (29)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、 臨床推論、緊急度判定について理解する。	「PEMEC 総合症候Ⅰフィードバック」 ・症候に異常を来した傷病者における問診、臨床推論、 緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	大野 健二
30	通 年 (4月～3月)	「PEMEC 実践論 (30)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、 臨床推論、緊急度判定について理解する。	「PEMEC 総合症候Ⅰスキルチェック」 ・症候に異常を来した傷病者における問診、臨床推論、 緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	大野 健二
31	通 年 (4月～3月)	「PEMEC 実践論 (31)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、 臨床推論、緊急度判定について理解する。	「PEMEC 頭痛・胸痛等スキルチェック」 ・頭痛、胸痛、腹痛の傷病者における問診、臨床推論、 緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	大野 健二
32	通 年 (4月～3月)	「PEMEC 実践論 (32)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、 臨床推論、緊急度判定について理解する。	「PEMEC 頭痛・胸痛等フィードバック」 ・頭痛、胸痛、腹痛の傷病者における問診、臨床推論、 緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	大野 健二
33	通 年 (4月～3月)	「PEMEC 実践論 (33)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、 臨床推論、緊急度判定について理解する。	「PEMEC 頭痛・胸痛等スキルチェック」 ・頭痛、胸痛、腹痛の傷病者における問診、臨床推論、 緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	大野 健二
34	通 年 (4月～3月)	「PEMEC 実践論 (34)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、 臨床推論、緊急度判定について理解する。	「PEMEC 吐血・下血等スキルチェック」 ・吐血、下血、嘔吐の傷病者における問診、臨床推論、 緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	大野 健二
35	通 年 (4月～3月)	「PEMEC 実践論 (35)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、 臨床推論、緊急度判定について理解する。	「PEMEC 吐血・下血等フィードバック」 ・吐血、下血、嘔吐の傷病者における問診、臨床推論、 緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	大野 健二
36	通 年 (4月～3月)	「PEMEC 実践論 (36)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、 臨床推論、緊急度判定について理解する。	「PEMEC 吐血・下血等スキルチェック」 ・吐血、下血、嘔吐の傷病者における問診、臨床推論、 緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	大野 健二
37	通 年 (4月～3月)	「PEMEC 実践論 (37)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、 臨床推論、緊急度判定について理解する。	「PEMEC 総合症候Ⅱスキルチェック」 ・症候に異常を来した傷病者における問診、臨床推論、 緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	大野 健二
38	通 年 (4月～3月)	「PEMEC 実践論 (38)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、 臨床推論、緊急度判定について理解する。	「PEMEC 総合症候Ⅱフィードバック」 ・症候に異常を来した傷病者における問診、臨床推論、 緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	大野 健二
39	通 年 (4月～3月)	「PEMEC 実践論 (39)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、 臨床推論、緊急度判定について理解する。	「PEMEC 総合症候Ⅱスキルチェック」 ・症候に異常を来した傷病者における問診、臨床推論、 緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	大野 健二
40	通 年 (4月～3月)	「JPTEC 実践論 (1)」 外傷性救護活動に関する処置の適応、問診、 臨床推論、緊急度判定について理解する。	「JPTEC 頭部外傷スキルチェック」 ・頭部外傷の傷病者における問診、臨床推論、緊急度判 定とともに病院前救護活動が実施できる。	大野 健二
41	通 年 (4月～3月)	「JPTEC 実践論 (2)」 外傷性救護活動に関する処置の適応、問診、 臨床推論、緊急度判定について理解する。	「JPTEC 頭部外傷フィードバック」 ・頭部外傷の傷病者における問診、臨床推論、緊急度判 定とともに病院前救護活動が実施できる。	大野 健二

42	通 年 (4月～3月)	「JPTEC 実践論 (3)」 外傷性救護活動に関する処置の適応、問診、臨床推論、緊急度判定について理解する。	「JPTEC 頭部外傷スキルチェック」 ・頭部外傷の傷病者における問診、臨床推論、緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	大野 健二
43	通 年 (4月～3月)	「JPTEC 実践論 (4)」 外傷性救護活動に関する処置の適応、問診、臨床推論、緊急度判定について理解する。	「JPTEC 胸・腹部外傷スキルチェック」 ・胸、腹部外傷の傷病者における問診、臨床推論、緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	大野 健二
44	通 年 (4月～3月)	「JPTEC 実践論 (5)」 外傷性救護活動に関する処置の適応、問診、臨床推論、緊急度判定について理解する。	「JPTEC 胸・腹部外傷フィードバック」 ・胸、腹部外傷の傷病者における問診、臨床推論、緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	大野 健二
45	通 年 (4月～3月)	「JPTEC 実践論 (6)」 外傷性救護活動に関する処置の適応、問診、臨床推論、緊急度判定について理解する。	「JPTEC 胸・腹部外傷スキルチェック」 ・胸、腹部外傷の傷病者における問診、臨床推論、緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	大野 健二
46	通 年 (4月～3月)	「JPTEC 実践論 (7)」 外傷性救護活動に関する処置の適応、問診、臨床推論、緊急度判定について理解する。	「JPTEC 特殊外傷スキルチェック」 ・特殊外傷の傷病者における問診、臨床推論、緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	大野 健二
47	通 年 (4月～3月)	「JPTEC 実践論 (8)」 外傷性救護活動に関する処置の適応、問診、臨床推論、緊急度判定について理解する。	「JPTEC 特殊外傷フィードバック」 ・特殊外傷の傷病者における問診、臨床推論、緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	大野 健二
48	通 年 (4月～3月)	「JPTEC 実践論 (9)」 外傷性救護活動に関する処置の適応、問診、臨床推論、緊急度判定について理解する。	「JPTEC 特殊外傷スキルチェック」 ・特殊外傷の傷病者における問診、臨床推論、緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	大野 健二
49	通 年 (4月～3月)	「JPTEC 実践論 (10)」 外傷性救護活動に関する処置の適応、問診、臨床推論、緊急度判定について理解する。	「JPTEC 外傷総論スキルチェック」 ・受傷機転に応じた問診、臨床推論、緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	大野 健二
50	通 年 (4月～3月)	「JPTEC 実践論 (11)」 外傷性救護活動に関する処置の適応、問診、臨床推論、緊急度判定について理解する。	「JPTEC 外傷総論フィードバック」 ・受傷機転に応じた問診、臨床推論、緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	大野 健二
51	通 年 (4月～3月)	「JPTEC 実践論 (12)」 外傷性救護活動に関する処置の適応、問診、臨床推論、緊急度判定について理解する。	「JPTEC 外傷総論スキルチェック」 ・受傷機転に応じた問診、臨床推論、緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	大野 健二
52	通 年 (4月～3月)	「中毒・環境障害 実践論 (1)」 外因性救護活動に関する処置の適応、問診、臨床推論、緊急度判定について理解する。	「急性中毒・環境障害スキルチェック」 ・急性中毒・環境障害の傷病者における問診、臨床推論、緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	大野 健二
53	通 年 (4月～3月)	「中毒・環境障害 実践論 (2)」 外因性救護活動に関する処置の適応、問診、臨床推論、緊急度判定について理解する。	「急性中毒・環境障害フィードバック」 ・急性中毒・環境障害の傷病者における問診、臨床推論、緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	大野 健二
54	通 年 (4月～3月)	「中毒・環境障害 実践論 (3)」 外因性救護活動に関する処置の適応、問診、臨床推論、緊急度判定について理解する。	「急性中毒・環境障害スキルチェック」 ・急性中毒・環境障害の傷病者における問診、臨床推論、緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	大野 健二

【 注 意 事 項 】				
55 コマ ～ 62 コマ は臨床実習終了後の全員の学生が対象となるシミュレーション実習				
55	通 年 (4 月～3 月)	「オリエンテーション」 シミュレーションⅢ・シミュレーションⅣ に関する今後の実習内容について理解する	「オリエンテーション」 ・今後のシミュレーション実習のあり方について説明 できる。	大野 健二
56	通 年 (4 月～3 月)	「循環器疾患 実践論」 循環器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置 について実践的に理解する。	「循環器疾患」 テキスト P.569 参照 ・急性心筋梗塞に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬 送法について説明できる。	大野 健二
57	通 年 (4 月～3 月)	「循環器疾患 実践論」 循環器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置 について実践的に理解する。	「循環器疾患」 テキスト P.582 参照 ・大動脈解離に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送 法について説明できる。	大野 健二
58	通 年 (4 月～3 月)	「呼吸器疾患 実践論」 呼吸器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置 について実践的に理解する。	「呼吸器疾患」 テキスト P.561 参照 ・気管支喘息（重責発作）に対する観察、評価、鑑別、 処置及び搬送法について説明できる。	大野 健二
59	通 年 (4 月～3 月)	「呼吸器疾患 実践論」 呼吸器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置 について実践的に理解する。	「呼吸器疾患」 テキスト P.562 参照 ・慢性閉塞性肺疾患（COPD）に対する観察、評価、鑑 別、処置及び搬送法について説明できる。	大野 健二
60	通 年 (4 月～3 月)	「神経系疾患 実践論」 神経系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置 について実践的に理解する。	「神経系疾患」 テキスト P.550 参照 ・くも膜下出血に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬 送法について説明できる。	大野 健二
61	通 年 (4 月～3 月)	「神経系疾患 実践論」 神経系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置 について実践的に理解する。	「神経系疾患」 テキスト P.548 参照 ・脳梗塞（脳塞栓・脳血栓）に対する観察、評価、鑑別、 処置及び搬送法について説明できる。	大野 健二
62	通 年 (4 月～3 月)	「科目認定試験（筆記試験）」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	大野 健二
成績評価 方法	各種シミュレーションスキルチェック【筆記試験】（合計 100 点満点）			
準備学習 など	【 講師からのアドバイス 】 総合的な知識・技術を統合的に用いてシミュレーション実習に取り組むこと。			

学科・年次	救急救命科 2年次
科目名	シミュレーション実習Ⅳ (Simulation Ⅳ) ー外来講師 担当分ー
担当者	川辺 恵美子、杉村 修一郎、平松 礼司、益田 健史、森 健*五十音順
単位数(時間数)	8単位 (外来講師 76時間 + 専任講師 284時間 = 360時間)
学習方法	実 習
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第10版

授業概要と目的
【 学習目的 】 修得した知識、技術を病院前救護において的確かつ安全に応用できる実践能力を身につけ、メディカルコントロールの重要性を確認し、傷病者に対する適切な接遇を習得し、医師の指示の下で病院前救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任感を養う。 【 授業概要 】 シミュレーション教育より「平成30年度 救急救命士国家試験出題基準」に準じた事例を提示して、その模擬傷病者に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識・技術を系統的に学習する。 なお、医師もしくは助産師、薬剤師などの医療従事者として医療機関などで救急医学に関する臨床経験のある各々の講師が、その専門分野における経験を活かし授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後 期 (10月～3月)	「社会保障学 実践論」 救急医療に関連する社会保障制度などについて理解する。	「社会保障学(総合)」 ・在宅医療と地域包括ケアに対する対応(不搬送対応など)について説明できる。	平松 礼司
2	後 期 (10月～3月)	「社会保障学 実践論」 救急医療に関連する社会保障制度などについて理解する。	「社会保障学(総合)」 ・労働災害発生時に対する対応(不搬送対応など)について説明できる。	平松 礼司
3	後 期 (10月～3月)	「感染症 実践論」 感染症の疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	「感染症」テキストP.635参照 ・麻疹に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	森 健
4	後 期 (10月～3月)	「感染症 実践論」 感染症の疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	「感染症」テキストP.635参照 ・破傷風に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	森 健
5	後 期 (10月～3月)	「妊婦・分娩と救急疾患 実践論」 妊婦・分娩と救急疾患の概要、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	「妊娠・分娩と救急疾患」テキストP.670参照 ・正常分娩時の観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	川辺 恵美子

6	後 期 (10月～3月)	「妊婦・分娩と救急疾患 実践論」 妊婦・分娩と救急疾患の概要、病態、症候、 観察、処置について実践的に理解する。	「妊娠・分娩と救急疾患」 テキストP.415 参照 ・新生児蘇生時の観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に ついて説明できる。	川辺 恵美子
7	後 期 (10月～3月)	「病理学 実践論」 救急医療に関連する病理学について理解す る。	「救急医療と病理学」 テキストP.179 参照 ・日和見感染症を引き起こす病原体について説明でき る。	益田 健史
8	後 期 (10月～3月)	「病理学 実践論」 救急医療に関連する病理学について理解す る。	「救急医療と病理学」 テキストP.612 参照 ・高張性脱水と低張性脱水との違いについて説明でき る。	益田 健史
9	後 期 (10月～3月)	「病理学 実践論」 救急医療に関連する病理学について理解す る。	「救急医療と病理学」 ・悪性新生物（癌腫・肉腫）の特徴について説明できる。	益田 健史
10	後 期 (10月～3月)	「病理学 実践論」 救急医療に関連する病理学について理解す る。	「救急医療と病理学」 テキストP.210 参照 ・病的肥大と作業性肥大の違いについて説明できる。	益田 健史
11	後 期 (10月～3月)	「救急現場で求められる解剖」 救急現場で求められる解剖学および生理学 について理解する。	「体表からみる人体の構造」 テキストP.63 参照 ・身体にある3つの軸と面について説明できる。 ・後腹膜腔に存在する臓器について説明できる。	杉村 修一郎
12	後 期 (10月～3月)	「救急現場で求められる解剖」 救急現場で求められる解剖学および生理学 について理解する。	「人体の構造と機能」 テキストP.77 参照 ・脳神経の機能と観察所見について説明できる。 ・意識の中核（覚醒中枢）について説明できる。	杉村 修一郎
13	後 期 (10月～3月)	「救急現場で求められる解剖」 救急現場で求められる解剖学および生理学 について理解する。	「人体の構造と機能」 テキストP.77 参照 ・小児と成人の気道の構造の違いについて説明できる。 ・呼吸運動における吸気筋について説明できる。	杉村 修一郎
14	後 期 (10月～3月)	「救急現場で求められる解剖」 救急現場で求められる解剖学および生理学 について理解する。	「人体の構造と機能」 テキストP.77 参照 ・循環の制御（平均血圧・心拍出量の構成因子）につい て説明できる。	杉村 修一郎
15	後 期 (10月～3月)	「循環器疾患 実践論」 循環器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置 について実践的に理解する。	「循環器疾患」 テキストP.567 参照 ・狭心症（安定型・不安定型・異型）に対する観察、評 価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	杉村 修一郎
16	後 期 (10月～3月)	「循環器疾患 実践論」 循環器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置 について実践的に理解する。	「循環器疾患」 テキストP.567 参照 ・急性大動脈解離に対する観察、評価、鑑別、処置及び 搬送法について説明できる。	杉村 修一郎
17	後 期 (10月～3月)	「循環器疾患 実践論」 循環器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置 について実践的に理解する。	「循環器疾患」 テキストP.567 参照 ・急性四肢動脈閉塞症に対する観察、評価、鑑別、処置 及び搬送法について説明できる。	杉村 修一郎
18	後 期 (10月～3月)	「循環器疾患 実践論」 循環器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置 について実践的に理解する。	「循環器疾患」 テキストP.567 参照 ・不整脈波形から心電図の読解方法について説明でき る。	杉村 修一郎

19	後 期 (10月～3月)	「 呼吸器疾患 実践論 」 呼吸器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	「 呼吸器疾患 」 テキストP.558 参照 ・急性喉頭蓋炎に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	杉村 修一郎
20	後 期 (10月～3月)	「 呼吸器疾患 実践論 」 呼吸器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	「 呼吸器疾患 」 テキストP.558 参照 ・市中肺炎、院内肺炎、誤嚥性肺炎に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	杉村 修一郎
21	後 期 (10月～3月)	「 呼吸器疾患 実践論 」 呼吸器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	「 呼吸器疾患 」 テキストP.558 参照 ・肺血栓塞栓症に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	杉村 修一郎
22	後 期 (10月～3月)	「 呼吸器疾患 実践論 」 呼吸器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	「 呼吸器疾患 」 テキストP.558 参照 ・過換気症候群に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	杉村 修一郎
23	後 期 (10月～3月)	「 意識障害 実践論 」 意識障害の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「 意識障害の原因疾患 」 標準テキストP.488 参照 ・一次性脳病変と二次性脳病変による意識障害の違いについて説明できる。	益田 健史
24	後 期 (10月～3月)	「 意識障害 実践論 」 意識障害の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「 遷延性意識障害 」 救命士標準テキストP.491 参照 ・遷延性意識障害の症候について説明できる。	益田 健史
25	後 期 (10月～3月)	「 外傷各論 実践論 」 各々の外傷より病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	「 頭部・頸部・顔面外傷 」 テキストP.715 参照 ・硬膜下血腫および硬膜外血腫の受傷機転、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	杉村 修一郎
26	後 期 (10月～3月)	「 外傷各論 実践論 」 各々の外傷より病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	「 胸部・腹部外傷 」 テキストP.733 参照 ・フレイルチェストの受傷機転、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	杉村 修一郎
27	後 期 (10月～3月)	「 外傷各論 実践論 」 各々の外傷より病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	「 骨盤外傷 」 テキストP.743 参照 ・垂直剪断型骨盤骨折の受傷機転、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	杉村 修一郎
28	後 期 (10月～3月)	「 外傷各論 実践論 」 各々の外傷より病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	「 皮膚・軟部組織外傷 」 テキストP.627 参照 ・クラッシュ（圧挫）症候群の受傷機転、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	杉村 修一郎
29	後 期 (10月～3月)	「 総合 疾病救急医学 実践論 」 疾病救急医学に関連した総合的な救護活動について理解する。	「 総合 疾病救急医学 」 ・傷病者の観察所見および症候より疾病の原因を列挙して、その病態について説明できる。	杉村 修一郎
30	後 期 (10月～3月)	「 総合 疾病救急医学 実践論 」 疾病救急医学に関連した総合的な救護活動について理解する。	「 総合 疾病救急医学 」 ・傷病者の観察所見および症候より疾病の原因を列挙して、その病態について説明できる。	杉村 修一郎
31	後 期 (10月～3月)	「 総合 外傷救急医学 実践論 」 外傷救急医学に関連した総合的な救護活動について理解する。	「 総合 外傷救急医学 」 ・傷病者の観察所見および受傷機転より外傷の原因を列挙して、その病態について説明できる。	杉村 修一郎

32	後 期 (10月～3月)	「総合 外傷救急医学 実践論」 外傷救急医学に関連した総合的な救護活動について理解する。	「総合 外傷救急医学」 ・傷病者の観察所見および受傷機転より外傷の原因を 列挙して、その病態について説明できる。	杉村 修一郎
33	後 期 (10月～3月)	「妊婦・分娩と救急疾患 実践論」 妊婦・分娩と救急疾患の概要、病態、症候、 観察、処置について実践的に理解する。	「妊娠・分娩と救急疾患」 テキスト P.668 参照 ・異所性妊娠（子宮外妊娠）における観察、評価、鑑別、 処置及び搬送法について説明できる。	川辺 恵美子
34	後 期 (10月～3月)	「妊婦・分娩と救急疾患 実践論」 妊婦・分娩と救急疾患の概要、病態、症候、 観察、処置について実践的に理解する。	「妊娠・分娩と救急疾患」 テキスト P.669 参照 ・常位胎盤早期剥離における観察、評価、鑑別、処置及 び搬送法について説明できる。	川辺 恵美子
35	後 期 (10月～3月)	「社会保障学 実践論」 救急医療に関連する社会保障制度などにつ いて理解する。	「社会保障学（総合）」 テキスト P.47 参照 ・救急隊員と児童虐待（児童福祉法）に対する対応（不 搬送対応など）について説明できる。	平松 礼司
36	後 期 (10月～3月)	「社会保障学 実践論」 救急医療に関連する社会保障制度などにつ いて理解する。	「社会保障学（総合）」 テキスト P.51 参照 ・救急隊員と生活保護法適応者に対する対応（不搬送対 応など）について説明できる。	平松 礼司
37	後 期 (10月～3月)	「血液・免疫系疾患 実践論」 血液・免疫系疾患の疫学、病態、症候、観 察、処置について実践的に理解する。	「血液・免疫系疾患」 テキスト P.617 参照 ・貧血に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法につ いて説明できる。	森 健
38	後 期 (10月～3月)	「血液・免疫系疾患 実践論」 血液・免疫系疾患の疫学、病態、症候、観 察、処置について実践的に理解する。	「血液・免疫系疾患」 テキスト P.617 参照 ・血友病に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に ついて説明できる。	森 健
成績評価方法		筆記試験（100 点満点） なお専任講師担当分と外来講師担当分の筆記試験は総合的に評価する。		
準備学習など		【 講師からのアドバイス 】 総合的な知識・技術を統合的に用いてシミュレーション実習に取り組むこと。		

学科・年次	救急救命科 2年次
科目名	シミュレーション実習Ⅳ（SimulationⅣ）－専任講師 担当分－
担当者	大野 健二
単位数（時間数）	8単位（ 外来講師 76時間 ＋ 専任講師 284時間 ＝ 360時間 ）
学習方法	実 習
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第10版

授業概要と目的
【 学習目的 】 修得した知識、技術を病院前救護において的確かつ安全に応用できる実践能力を身につけ、メディカルコントロールの重要性を確認し、傷病者に対する適切な接遇を習得し、医師の指示の下で病院前救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任感を養う。 【 授業概要 】 シミュレーション教育より「平成30年度 救急救命士国家試験出題基準」に準じた事例を提示して、その模擬傷病者に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識・技術を系統的に学習する。 なお、救急救命士として消防機関などで救急業務に関する現場経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後 期 (10月～3月)	「処置各論（総合）実践論」 救急現場における処置の適応、評価、禁忌、 注意について総合的に理解する。	「処置各論（総合）」 ・救急現場における気管挿管プロトコルについて説 明できる。	大野 健二
2	後 期 (10月～3月)	「処置各論（総合）実践論」 救急現場における処置の適応、評価、禁忌、 注意について総合的に理解する。	「処置各論（総合）」 ・救急現場における気管挿管プロトコルについて説 明できる。	大野 健二
3	後 期 (10月～3月)	「処置各論（総合）実践論」 救急現場における処置の適応、評価、禁忌、 注意について総合的に理解する。	「処置各論（総合）」 ・救急現場における器具による気道確保プロトコル について説明できる。	大野 健二
4	後 期 (10月～3月)	「処置各論（総合）実践論」 救急現場における処置の適応、評価、禁忌、 注意について総合的に理解する。	「処置各論（総合）」 ・救急現場における器具による気道確保プロトコル について説明できる。	大野 健二
5	後 期 (10月～3月)	「処置各論（総合）実践論」 救急現場における処置の適応、評価、禁忌、 注意について総合的に理解する。	「処置各論（総合）」 ・救急現場における乳酸リンゲル液を用いた静脈路確 保による輸液について説明できる。	大野 健二
6	後 期 (10月～3月)	「処置各論（総合）実践論」 救急現場における処置の適応、評価、禁忌、 注意について総合的に理解する。	「処置各論（総合）」 ・救急現場における乳酸リンゲル液を用いた静脈路確 保による輸液について説明できる。	大野 健二

7	後 期 (10月～3月)	「処置各論（総合）実践論」 救急現場における処置の適応、評価、禁忌、 注意について総合的に理解する。	「処置各論（総合）」 ・救急現場における乳酸リンゲル液を用いた静脈路確 保および輸液について説明できる。	大野 健二
8	後 期 (10月～3月)	「処置各論（総合）実践論」 救急現場における処置の適応、評価、禁忌、 注意について総合的に理解する。	「処置各論（総合）」 ・救急現場における乳酸リンゲル液を用いた静脈路確 保および輸液について説明できる。	大野 健二
9	後 期 (10月～3月)	「処置各論（総合）実践論」 救急現場における処置の適応、評価、禁忌、 注意について総合的に理解する。	「処置各論（総合）」 ・救急現場における薬剤投与プロトコールについて説 明できる。	大野 健二
10	後 期 (10月～3月)	「処置各論（総合）実践論」 救急現場における処置の適応、評価、禁忌、 注意について総合的に理解する。	「処置各論（総合）」 ・救急現場における薬剤投与プロトコールについて説 明できる。	大野 健二
11	後 期 (10月～3月)	「病院前救護（基礎）実践論」 病院前救護における搬送上の注意点、搬送 方法について理解する。	「災害医療における活動」テキストP.295 参照 ・多発傷病者対応時の一次トリアージおよび二次トリ アージについて説明できる。	大野 健二
12	後 期 (10月～3月)	「病院前救護（基礎）実践論」 病院前救護における搬送上の注意点、搬送 方法について理解する。	「災害医療における活動」テキストP.295 参照 ・多発傷病者対応時のゾーニングについて説明できる。	大野 健二
13	後 期 (10月～3月)	「病院前救護（総合）実践論」 病院前救護における搬送上の注意点、搬送 方法について理解する。	「MCL Sシミュレーション」 ・多数傷病者対応標準化プログラムの活動根拠、目的に ついて説明できる。	大野 健二
14	後 期 (10月～3月)	「病院前救護（総合）実践論」 病院前救護における搬送上の注意点、搬送 方法について理解する。	「MCL Sシミュレーション」 ・多数傷病者対応標準化プログラムにおけるC S C A T T Tについて説明できる。	大野 健二
15	後 期 (10月～3月)	「傷病者観察 実践論」 救急現場における観察の評価、フィードバ ック、注意について理解する。	「傷病者観察（総合）」テキストP.304 参照 ・異常呼吸パターンと病態の関連について説明できる。 ・年齢による脈拍数などの変化について説明できる。	大野 健二
16	後 期 (10月～3月)	「傷病者観察 実践論」 救急現場における観察の評価、フィードバ ック、注意について理解する。	「傷病者観察（総合）」テキストP.312 参照 ・ドロッピングテストについて説明できる。 ・シンシナティ脳卒中スケールについて説明できる。	大野 健二
17	後 期 (10月～3月)	「社会保障学 実践論」 救急医療に関連する社会保障制度などにっ いて理解する。	「社会保障学（総合）」テキストP.258 参照 ・DNAR 対象傷病者に対する対応（不搬送対応など） について説明できる。	大野 健二
18	後 期 (10月～3月)	「社会保障学 実践論」 救急医療に関連する社会保障制度などにっ いて理解する。	「社会保障学（総合）」テキストP.47 参照 ・児童虐待の恐れのある場合における対応（報告機関な ど）について説明できる。	大野 健二
19	後 期 (10月～3月)	「傷病者観察（総合）実践論」 救急現場における観察の評価、フィードバ ック、注意について総合的に理解する。	「傷病者観察（総合）」テキストP.315 参照 ・外頸静脈の怒張時の病態または疾患について説明で きる。	大野 健二

20	後 期 (10月～3月)	「傷病者観察（総合）実践論」 救急現場における観察の評価、フィードバック、注意について総合的に理解する。	「傷病者観察（総合）」テキストP.316 参照 ・連続性ラ音および断続性ラ音時の病態または疾患について説明できる。	大野 健二
21	後 期 (10月～3月)	「病理学/法医学/薬学 実践論」 救急医療に関連する病理学、法医学、薬学などについて理解する。	「病理学/法医学」テキストP.194 参照 ・現場における明らかな死亡の判断について説明できる。	大野 健二
22	後 期 (10月～3月)	「病理学/法医学/薬学 実践論」 救急医療に関連する病理学、法医学、薬学などについて理解する。	「薬 学」テキストP.207 参照 ・インスリン製剤、自己注射用アドレナリン製剤の適応、禁忌について説明できる。	大野 健二
23	後 期 (10月～3月)	「病院前救護 実践論」 病院前における社会的な背景を把握し、処置、観察などを総合的に理解する。	「病院前救護」テキストP.429 参照 ・在宅療法継続中の傷病者の現場活動における観察、処置、搬送時の注意点について説明できる。	大野 健二
24	後 期 (10月～3月)	「病院前救護 実践論」 病院前における社会的な背景を把握し、処置、観察などを総合的に理解する。	「病院前救護」テキストP.409 参照 ・事故車両からの救出方法、事故車内の観察・処置の注意点について説明できる。	大野 健二
25	後 期 (10月～3月)	「意識障害・頭痛 実践論」 意識障害・頭痛の原因を列挙し、それぞれの救急活動について理解する。	「意識障害」テキストP.489 参照 ・傷病者の観察所見より意識障害の原因を列挙して、その病態について説明できる。	大野 健二
26	後 期 (10月～3月)	「意識障害・頭痛 実践論」 意識障害・頭痛の原因を列挙し、それぞれの救急活動について理解する。	「頭 痛」テキストP.492 参照 ・傷病者の観察所見より頭痛の原因を列挙して、その病態について説明できる。	大野 健二
27	後 期 (10月～3月)	「胸痛・腹痛 実践論」 胸痛・腹痛の原因を列挙し、それぞれの救急活動について理解する。	「胸 痛」テキストP.522 参照 ・傷病者の観察所見より胸痛の原因を列挙して、その病態について説明できる。	大野 健二
28	後 期 (10月～3月)	「胸痛・腹痛 実践論」 胸痛・腹痛の原因を列挙し、それぞれの救急活動について理解する。	「腹 痛」テキストP.530 参照 ・傷病者の観察所見より腹痛の原因を列挙して、その病態について説明できる。	大野 健二
29	後 期 (10月～3月)	「運動障害・痙攣 実践論」 運動障害・痙攣の原因を列挙し、それぞれの救急活動について理解する。	「運動障害」テキストP.505 参照 ・傷病者の観察所見より運動障害の原因を列挙して、その病態について説明できる。	大野 健二
30	後 期 (10月～3月)	「運動障害・痙攣 実践論」 運動障害・痙攣の原因を列挙し、それぞれの救急活動について理解する。	「痙 攣」テキストP.497 参照 ・傷病者の観察所見より痙攣の原因を列挙して、その病態について説明できる。	大野 健二
31	後 期 (10月～3月)	「病態学/症候学（総合）実践論」 観察所見から症候と病態を把握し、適切な救急活動への反映について理解する。	「病態学/症候学（総合）」 ・1 分以上の痙攣を呈している傷病者の原因を列挙して、処置、搬送について説明できる。	大野 健二
32	後 期 (10月～3月)	「病態学/症候学（総合）実践論」 観察所見から症候と病態を把握し、適切な救急活動への反映について理解する。	「病態学/症候学（総合）」 ・20 分以上の胸痛を呈している傷病者の原因を列挙して、処置、搬送について説明できる。	大野 健二

33	後 期 (10月～3月)	「病態学/症候学(総合) 実践論」 観察所見から症候と病態を把握し、適切な 救急活動への反映について理解する。	「病態学/症候学(総合)」 ・呼吸性呼吸困難を呈している傷病者の原因を列挙し て、処置、搬送について説明できる。	大野 健二
34	後 期 (10月～3月)	「病態学/症候学(総合) 実践論」 観察所見から症候と病態を把握し、適切な 救急活動への反映について理解する。	「病態学/症候学(総合)」 ・間欠性腹痛を呈している傷病者の原因を列挙して、処 置、搬送について説明できる。	大野 健二
35	後 期 (10月～3月)	「反復 救護活動 実践論」 これまで学習した内容の再認識を図り、さ らに円滑的な救護活動について理解する。	「緊急度・重症度の判断」 テキストP.700 参照 ・緊急度・重症度の高い胸痛をきたす原因疾患について 説明できる。	大野 健二
36	後 期 (10月～3月)	「反復 救護活動 実践論」 これまで学習した内容の再認識を図り、さ らに円滑的な救護活動について理解する。	「緊急度・重症度の判断」 テキストP.700 参照 ・緊急度・重症度の高い腹痛をきたす原因疾患について 説明できる。	大野 健二
37	後 期 (10月～3月)	「呼吸不全・心不全 実践論」 呼吸不全・心不全の原因を列挙し、それぞ れの救急活動について理解する。	「呼吸不全」 テキストP.455 参照 ・傷病者の観察所見より呼吸不全の原因を列挙して、そ の病態について説明できる。	大野 健二
38	後 期 (10月～3月)	「呼吸不全・心不全 実践論」 呼吸不全・心不全の原因を列挙し、それぞ れの救急活動について理解する。	「心不全」 テキストP.461 参照 ・傷病者の観察所見より心不全の原因を列挙して、その 病態について説明できる。	大野 健二
39	後 期 (10月～3月)	「病態学/症候学(総合) 実践論」 観察所見から症候と病態を把握し、適切な 救急活動への反映について理解する。	「病態学/症候学(総合)」 ・レッドフラグサイン(腰痛)を呈している傷病者の原 因を列挙して、処置、搬送について説明できる。	大野 健二
40	後 期 (10月～3月)	「病態学/症候学(総合) 実践論」 観察所見から症候と病態を把握し、適切な 救急活動への反映について理解する。	「病態学/症候学(総合)」 ・激しい頭痛を呈している傷病者の原因を列挙して、処 置、搬送について説明できる。	大野 健二
41	後 期 (10月～3月)	「病態学/症候学(総合) 実践論」 観察所見から症候と病態を把握し、適切な 救急活動への反映について理解する。	「病態学/症候学(総合)」 ・意識障害を呈している傷病者の原因を列挙して、処 置、搬送について説明できる。	大野 健二
42	後 期 (10月～3月)	「病態学/症候学(総合) 実践論」 観察所見から症候と病態を把握し、適切な 救急活動への反映について理解する。	「病態学/症候学(総合)」 ・ショックを呈している傷病者の原因を列挙して、処 置、搬送について説明できる。	大野 健二
43	後 期 (10月～3月)	「循環器疾患 実践論」 循環器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置 について実践的に理解する。	「循環器疾患」 テキストP.569 参照 ・急性心筋梗塞に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬 送法について説明できる。	大野 健二
44	後 期 (10月～3月)	「循環器疾患 実践論」 循環器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置 について実践的に理解する。	「循環器疾患」 テキストP.582 参照 ・大動脈解離に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送 法について説明できる。	大野 健二
45	後 期 (10月～3月)	「呼吸器疾患 実践論」 呼吸器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置 について実践的に理解する。	「呼吸器疾患」 テキストP.561 参照 ・気管支喘息(重責発作)に対する観察、評価、鑑別、 処置及び搬送法について説明できる。	大野 健二

46	後 期 (10月～3月)	「 呼吸器疾患 実践論 」 呼吸器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	「 呼吸器疾患 」 テキストP.562 参照 ・慢性閉塞性肺疾患（COPD）に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野 健二
47	後 期 (10月～3月)	「 循環器/呼吸器（総合）実践論 」 循環器および呼吸器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	「 循環器疾患（総合） 」 ・胸痛を鑑別し、循環器疾患に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野 健二
48	後 期 (10月～3月)	「 循環器/呼吸器（総合）実践論 」 循環器および呼吸器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	「 呼吸器疾患（総合） 」 ・呼吸困難を鑑別し、呼吸器疾患に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野 健二
49	後 期 (10月～3月)	「 神経系疾患 実践論 」 神経系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	「 神経系疾患 」 テキストP.550 参照 ・くも膜下出血に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野 健二
50	後 期 (10月～3月)	「 神経系疾患 実践論 」 神経系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	「 神経系疾患 」 テキストP.548 参照 ・脳梗塞（脳塞栓・脳血栓）に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野 健二
51	後 期 (10月～3月)	「 回復 救護活動 実践論 」 これまで学習した内容の再認識を図り、さらに円滑的な救護活動について理解する。	「 緊急度・重症度の判断 」 テキストP.327 参照 ・緊急度・重症度の高い呼吸困難をきたす原因疾患について説明できる。	大野 健二
52	後 期 (10月～3月)	「 回復 救護活動 実践論 」 これまで学習した内容の再認識を図り、さらに円滑的な救護活動について理解する。	「 緊急度・重症度の判断 」 テキストP.327 参照 ・緊急度・重症度の高い意識障害をきたす原因疾患について説明できる。	大野 健二
53	後 期 (10月～3月)	「 内分泌系疾患 実践論 」 内分泌系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	「 内分泌系疾患 」 テキストP.608 参照 ・低血糖に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野 健二
54	後 期 (10月～3月)	「 内分泌系疾患 実践論 」 内分泌系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	「 内分泌系疾患 」 テキストP.611 参照 ・糖尿病性ケトアシドーシスに対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野 健二
55	後 期 (10月～3月)	「 神経/内分泌（総合）実践論 」 神経および内分泌系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	「 神経系疾患（総合） 」 ・頭痛を鑑別し、神経系疾患に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野 健二
56	後 期 (10月～3月)	「 神経/内分泌（総合）実践論 」 神経および内分泌系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	「 内分泌系疾患（総合） 」 ・意識障害を鑑別し、内分泌系疾患に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野 健二
57	後 期 (10月～3月)	「 消化器系疾患 実践論 」 消化器系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	「 消化器系疾患 」 テキストP.592 参照 ・絞扼性イレウスに対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野 健二
58	後 期 (10月～3月)	「 消化器系疾患 実践論 」 消化器系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	「 消化器系疾患 」 テキストP.590 参照 ・食道静脈瘤破裂に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野 健二

59	後 期 (10月～3月)	「腎/泌尿器/感染 実践論」 腎・泌尿器系疾患などの疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	「腎/泌尿器」 テキスト P.599 参照 ・急性腎盂腎炎に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野 健二
60	後 期 (10月～3月)	「腎/泌尿器/感染 実践論」 腎・泌尿器系疾患などの疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	「感 染」 テキスト P.563 参照 ・肺炎に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野 健二
61	後 期 (10月～3月)	「消化器/腎など(総合) 実践論」 消化器などの疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	「腎/泌尿器(総合)」 ・腰痛を鑑別し、腎/泌尿器系疾患に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野 健二
62	後 期 (10月～3月)	「消化器/腎など(総合) 実践論」 消化器などの疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	「感 染(総合)」 ・発熱を鑑別し、感染性疾患に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野 健二
63	後 期 (10月～3月)	「小児に特有な疾患等 実践論」 小児に特有な疾患などの疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	「小児に特有な疾患」 テキスト P.654 参照 ・溶血性尿毒症症候群に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野 健二
64	後 期 (10月～3月)	「小児に特有な疾患等 実践論」 小児に特有な疾患などの疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	「高齢者に特有な疾患」 テキスト P.562 参照 ・肺気腫に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野 健二
65	後 期 (10月～3月)	「小児系疾患等(総合) 実践論」 小児に特有な疾患などの疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	「妊娠・分娩と救急疾患」 テキスト P.665 参照 ・正常分娩時の観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野 健二
66	後 期 (10月～3月)	「小児系疾患等(総合) 実践論」 小児に特有な疾患などの疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	「精神障害」 テキスト P.683 参照 ・パニック障害に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野 健二
67	後 期 (10月～3月)	「外傷総論 実践論」 受傷機転より病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	「外傷総論」 テキスト P.697 参照 ・四輪車の外傷時の受傷機転、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野 健二
68	後 期 (10月～3月)	「外傷総論 実践論」 受傷機転より病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	「外傷総論」 テキスト P.699 参照 ・墜落・転落による外傷時の受傷機転、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野 健二
69	後 期 (10月～3月)	「外傷総論(総合) 実践論」 外傷における受傷機転、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	「外傷総論」 テキスト P.700 参照 ・挟圧外傷時の受傷機転、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野 健二
70	後 期 (10月～3月)	「外傷総論(総合) 実践論」 外傷における受傷機転、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	「外傷総論」 テキスト P.695 参照 ・鋭的損傷時の受傷機転、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野 健二
71	後 期 (10月～3月)	「外傷各論 実践論」 各々の外傷より病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	「頭部・頸部・顔面外傷」 テキスト P.717 参照 ・頭蓋底骨折の受傷機転、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野 健二

72	後 期 (10月～3月)	「外傷各論 実践論」 各々の外傷より病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	「胸部・腹部外傷」 テキスト P.735 参照 ・緊張性気胸の受傷機転、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野 健二
73	後 期 (10月～3月)	「外傷各論（総合） 実践論」 外傷における受傷機転、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	「骨盤外傷」 テキスト P.744 参照 ・垂直剪断型骨盤骨折の受傷機転、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野 健二
74	後 期 (10月～3月)	「外傷各論（総合） 実践論」 外傷における受傷機転、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	「皮膚・軟部組織外傷」 テキスト P.760 参照 ・熱傷（広範囲）の受傷機転、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野 健二
75	後 期 (10月～3月)	「回復 救護活動Ⅰ 実践論」 これまで学習した内容の再認識を図り、さらに円滑的な救護活動について理解する。	「災害医療における活動」 テキスト P.244 参照 ・多発傷患者対応時のゾーニングについて再度、確認・説明できる。	大野 健二
76	後 期 (10月～3月)	「回復 救護活動Ⅰ 実践論」 これまで学習した内容の再認識を図り、さらに円滑的な救護活動について理解する。	「ストレスへの対応」 テキスト P.296 参照 ・デフュージングの目的、対象、方法と手順について再度、確認・説明できる。	大野 健二
77	後 期 (10月～3月)	「回復 観察・処置Ⅰ 実践論」 観察・処置に関連した総合的な救護活動について理解する。	「胸骨圧迫の適応」 標準テキスト P.376 参照 ・乳幼児、小児、成人の胸骨圧迫の目的、適応、方法と手順について再度、確認・説明できる。	大野 健二
78	後 期 (10月～3月)	「回復 観察・処置Ⅰ 実践論」 観察・処置に関連した総合的な救護活動について理解する。	「静脈路確保と輸液の適応」 テキスト P.383 参照 ・静脈路確保と輸液の目的、適応、方法と手順について再度、確認・説明できる。	大野 健二
79	後 期 (10月～3月)	「回復 症候・病態学Ⅰ 実践論」 症候・病態生理学に関連した総合的な救護活動について理解する。	「意識障害」 テキスト P.489 参照 ・傷病者の観察所見より意識障害の原因を列挙して、その病態について再度、確認・説明できる。	大野 健二
80	後 期 (10月～3月)	「回復 症候・病態学Ⅰ 実践論」 症候・病態生理学に関連した総合的な救護活動について理解する。	「頭 痛」 テキスト P.492 参照 ・傷病者の観察所見より頭痛の原因を列挙して、その病態について再度、確認・説明できる。	大野 健二
81	後 期 (10月～3月)	「在宅医療 実践論」 在宅医療に特有な疾患の概要、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	「在宅医療」 テキスト P.429 参照 ・気管切開時の観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野 健二
82	後 期 (10月～3月)	「在宅医療 実践論」 在宅医療に特有な疾患の概要、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	「在宅医療」 テキスト P.429 参照 ・血液透析時の観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野 健二
83	後 期 (10月～3月)	「特殊外傷 実践論」 特殊外傷の病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	「皮膚・軟部組織外傷」 テキスト P.750 参照 ・コンパートメント症候群の受傷機転、観察、評価、鑑別、処置及び搬送について説明できる。	大野 健二
84	後 期 (10月～3月)	「特殊外傷 実践論」 特殊外傷の病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	「特殊外傷」 テキスト P.779 参照 ・総頸および絞頸の受傷機転、観察、評価、鑑別、処置及び搬送について説明できる。	大野 健二

85	後 期 (10月～3月)	「精神障害 実践論」 精神障害の概要、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	「精神障害」 テキスト P.680 参照 ・自殺企図者に対する「TALK の原則」について説明できる。	大野 健二
86	後 期 (10月～3月)	「精神障害 実践論」 精神障害の概要、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	「精神障害」 テキスト P.680 参照 ・統合失調症に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野 健二
87	後 期 (10月～3月)	「精神障害 実践論」 精神障害の概要、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	「精神障害」 テキスト P.681 参照 ・双極性障害（主にうつ病）に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野 健二
88	後 期 (10月～3月)	「精神障害 実践論」 精神障害の概要、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	「精神障害」 テキスト P.684 参照 ・解離性（転換性）障害に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野 健二
89	後 期 (10月～3月)	「高齢者に特有な疾患 実践論」 高齢者に特有な疾患の概要、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	「高齢者に特有な疾患」 テキスト P.662 参照 ・認知症に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野 健二
90	後 期 (10月～3月)	「高齢者に特有な疾患 実践論」 高齢者に特有な疾患の概要、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	「高齢者に特有な疾患」 テキスト P.663 参照 ・誤嚥性肺炎に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野 健二
91	後 期 (10月～3月)	「救急活動の基礎知識」 救急隊員として最低限度であり、必要不可欠な知識・技術について理解する。	「熱中症に対する現場活動」 P.817 参照 ・Ⅲ度熱中症に対する観察、処置、搬送について説明できる。	大野 健二
92	後 期 (10月～3月)	「救急活動の基礎知識」 救急隊員として最低限度であり、必要不可欠な知識・技術について理解する。	「急性中毒に対する現場活動」 P.798 参照 ・有機リン殺虫剤による中毒、覚醒剤中毒に対する観察、処置、搬送について説明できる。	大野 健二
93	後 期 (10月～3月)	「反復 疾病救急医学Ⅰ 実践論」 疾病救急医学に関連した総合的な救護活動について理解する。	「循環器疾患」 テキスト P.569 参照 ・急性心筋梗塞に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について再度、確認・説明できる。	大野 健二
94	後 期 (10月～3月)	「反復 疾病救急医学Ⅰ 実践論」 疾病救急医学に関連した総合的な救護活動について理解する。	「呼吸器疾患」 テキスト P.562 参照 ・慢性閉塞性肺疾患(COPD)に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について再度、確認・説明できる。	大野 健二
95	後 期 (10月～3月)	「反復 外傷救急医学Ⅰ 実践論」 外傷救急医学に関連した総合的な救護活動について理解する。	「外傷総論」 テキスト P.928 ・四輪車の外傷時の受傷機転、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について再度、確認・説明できる。	大野 健二
96	後 期 (10月～3月)	「反復 外傷救急医学Ⅰ 実践論」 外傷救急医学に関連した総合的な救護活動について理解する。	「外傷総論」 テキスト P.697 参照 ・墜落による外傷時の受傷機転、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について再度、確認・説明できる。	大野 健二
97	後 期 (10月～3月)	「中毒・環境障害Ⅰ 実践論」 中毒・環境障害に関連した総合的な救護活動について理解する。	「中毒各論」 テキスト P.806 参照 ・覚醒剤中毒に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野 健二

98	後 期 (10月～3月)	「中毒・環境障害Ⅰ 実践論」 中毒・環境障害に関連した総合的な救護活動について理解する。	「環境障害」テキストP.812 参照 ・溺水に対する発生機序、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野 健二
99	後 期 (10月～3月)	「反復 救護活動Ⅱ 実践論」 これまで学習した内容の再認識を図り、さらに円滑的な救護活動について理解する。	「社会保障学（総合）」テキストP.258 参照 ・DNAR 対象傷病者に対する対応（不搬送対応など）について再度、確認・説明できる。	大野 健二
100	後 期 (10月～3月)	「反復 救護活動Ⅱ 実践論」 これまで学習した内容の再認識を図り、さらに円滑的な救護活動について理解する。	「社会保障学（総合）」テキストP.47 参照 ・児童虐待の恐れのある場合における対応（報告機関など）について再度、確認・説明できる。	大野 健二
101	後 期 (10月～3月)	「反復 観察・処置Ⅱ 実践論」 観察・処置に関連した総合的な救護活動について理解する。	「気管挿管の適応」標準テキストP.358 参照 ・気管挿管の目的、適応、方法と手順について再度、確認・説明できる。	大野 健二
102	後 期 (10月～3月)	「反復 観察・処置Ⅱ 実践論」 観察・処置に関連した総合的な救護活動について理解する。	「ラリングアルチューブの適応」P.354 参照 ・ラリングアルチューブの目的、適応、方法と手順について再度、確認・説明できる。	大野 健二
103	後 期 (10月～3月)	「反復 症候・病態学Ⅱ 実践論」 症候・病態生理学に関連した総合的な救護活動について理解する。	「胸痛」テキストP.522 参照 ・傷病者の観察所見より胸痛の原因を列挙して、その病態について再度、確認・説明できる。	大野 健二
104	後 期 (10月～3月)	「反復 症候・病態学Ⅱ 実践論」 症候・病態生理学に関連した総合的な救護活動について理解する。	「腹痛」テキストP.530 参照 ・傷病者の観察所見より腹痛の原因を列挙して、その病態について再度、確認・説明できる。	大野 健二
105	後 期 (10月～3月)	「スチューデントラリー」 スチューデントラリーにおける実習生の救護活動の支援について理解する。	「シミュレーション教育のあり方」 ・シミュレーション教育における運営活動内容、スタッフ活動内容について説明できる。	大野 健二
106	後 期 (10月～3月)	「スチューデントラリー」 スチューデントラリーにおける実習生の救護活動の支援について理解する。	「シミュレーション教育のあり方」 ・シミュレーション教育における運営活動内容、スタッフ活動内容について説明できる。	大野 健二
107	後 期 (10月～3月)	「スチューデントラリー」 スチューデントラリーにおける実習生の救護活動の支援について理解する。	「シミュレーション教育のあり方」 ・シミュレーション教育における運営活動内容、スタッフ活動内容について説明できる。	大野 健二
108	後 期 (10月～3月)	「スチューデントラリー」 スチューデントラリーにおける実習生の救護活動の支援について理解する。	「シミュレーション教育のあり方」 ・シミュレーション教育における運営活動内容、スタッフ活動内容について説明できる。	大野 健二
109	後 期 (10月～3月)	「反復 疾病救急医学Ⅱ 実践論」 疾病救急医学に関連した総合的な救護活動について理解する。	「神経系疾患」テキストP.548 参照 ・脳梗塞（脳塞栓など）に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について再度、確認・説明できる。	大野 健二
110	後 期 (10月～3月)	「反復 疾病救急医学Ⅱ 実践論」 疾病救急医学に関連した総合的な救護活動について理解する。	「内分泌系疾患」テキストP.608 参照 ・低血糖に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について再度、確認・説明できる。	大野 健二

111	後 期 (10月～3月)	「反復 外傷救急医学Ⅱ 実践論」 外傷救急医学に関連した総合的な救護活動について理解する。	「頭部・頸部・顔面外傷」 テキスト P.717 参照 ・頭蓋底骨折の受傷機転、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について再度、確認・説明できる。	大野 健二
112	後 期 (10月～3月)	「反復 外傷救急医学Ⅱ 実践論」 外傷救急医学に関連した総合的な救護活動について理解する。	「胸部・腹部外傷」 テキスト P.735 参照 ・緊張性気胸の受傷機転、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について再度、確認・説明できる。	大野 健二
113	後 期 (10月～3月)	「中毒・環境障害Ⅱ 実践論」 中毒・環境障害に関連した総合的な救護活動について理解する。	「中毒各論」 P.798 参照 ・有機リン中毒に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野 健二
114	後 期 (10月～3月)	「中毒・環境障害Ⅱ 実践論」 中毒・環境障害に関連した総合的な救護活動について理解する。	「環境障害」 テキスト P.815 参照 ・熱中症に対する発生機序、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野 健二
115	後 期 (10月～3月)	「反復 救護活動Ⅲ 実践論」 これまで学習した内容の再認識を図り、さらに円滑的な救護活動について理解する。	「病理学/法医学」 テキスト P.194 参照 ・現場における明らかな死亡の判断について再度、確認・説明できる。	大野 健二
116	後 期 (10月～3月)	「反復 救護活動Ⅲ 実践論」 これまで学習した内容の再認識を図り、さらに円滑的な救護活動について理解する。	「薬 学」 テキスト P.200 参照 ・インスリン製剤、自己注射用アドレナリン製剤の適応、禁忌について再度、確認・説明できる。	大野 健二
117	後 期 (10月～3月)	「反復 観察・処置Ⅲ 実践論」 観察・処置に関連した総合的な救護活動について理解する。	「止血の適応」 標準テキスト P.399 参照 ・止血の目的、適応、方法と手順について再度、確認・説明できる。	大野 健二
118	後 期 (10月～3月)	「反復 観察・処置Ⅲ 実践論」 観察・処置に関連した総合的な救護活動について理解する。	「創傷処置の適応」 標準テキスト P.402 参照 ・創傷処置の目的、適応、方法と手順について再度、確認・説明できる。	大野 健二
119	後 期 (10月～3月)	「反復 疾病救急医学Ⅲ 実践論」 疾病救急医学に関連した総合的な救護活動について理解する。	「消化器系疾患」 テキスト P.590 参照 ・食道静脈瘤破裂に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について再度、確認・説明できる。	大野 健二
120	後 期 (10月～3月)	「反復 疾病救急医学Ⅲ 実践論」 疾病救急医学に関連した総合的な救護活動について理解する。	「妊娠・分娩と救急疾患」 テキスト P.665 参照 ・正常分娩時の観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について再度、確認・説明できる。	大野 健二
121	後 期 (10月～3月)	「反復 外傷救急医学Ⅲ 実践論」 外傷救急医学に関連した総合的な救護活動について理解する。	「骨盤外傷」 テキスト P.743 参照 ・垂直剪断型骨盤骨折の受傷機転、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について再度、確認・説明できる。	大野 健二
122	後 期 (10月～3月)	「反復 外傷救急医学Ⅲ 実践論」 外傷救急医学に関連した総合的な救護活動について理解する。	「皮膚・軟部組織外傷」 テキスト P.760 参照 ・熱傷（広範囲）の受傷機転、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について再度、確認・説明できる。	大野 健二
123	後 期 (10月～3月)	「反復 救護活動Ⅳ 実践論」 これまで学習した内容の再認識を図り、さらに円滑的な救護活動について理解する。	「ストレスに対するマネージメント」 P.296 ・救急活動でのストレスへの対応について再度、説明できる。	大野 健二

124	後 期 (10月～3月)	「反復 救護活動Ⅳ 実践論」 これまで学習した内容の再認識を図り、さらに円滑的な救護活動について理解する。	「デフュージングなど」 ・救急現場におけるデフュージングなどの要点について再度、説明できる。	大野 健二
125	後 期 (10月～3月)	「反復 観察・処置Ⅳ 実践論」 観察・処置に関連した総合的な救護活動について理解する。	「気管挿管の適応」 標準テキスト P.358 参照 ・気管挿管の目的、適応、方法と手順について再度、説明できる。	大野 健二
126	後 期 (10月～3月)	「反復 観察・処置Ⅳ 実践論」 観察・処置に関連した総合的な救護活動について理解する。	「静脈路確保と輸液の適応」 テキスト P.383 参照 ・静脈路確保と輸液の目的、適応、方法と手順について再度、説明できる。	大野 健二
127	後 期 (10月～3月)	「反復 疾病救急医学Ⅳ 実践論」 疾病救急医学に関連した総合的な救護活動について理解する。	「循環器疾患」 テキスト P.569 参照 ・急性心筋梗塞に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について再度、説明できる。	大野 健二
128	後 期 (10月～3月)	「反復 疾病救急医学Ⅳ 実践論」 疾病救急医学に関連した総合的な救護活動について理解する。	「呼吸器疾患」 テキスト P.561 参照 ・気管支喘息（重篤発作）に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について再度、説明できる。	大野 健二
129	後 期 (10月～3月)	「反復 外傷救急医学Ⅳ 実践論」 外傷救急医学に関連した総合的な救護活動について理解する。	「外傷総論」 テキスト P.695 参照 ・鋭的損傷時の受傷機転、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について再度、説明できる。	大野 健二
130	後 期 (10月～3月)	「反復 外傷救急医学Ⅳ 実践論」 外傷救急医学に関連した総合的な救護活動について理解する。	「頭部・頸部・顔面外傷」 テキスト P.717 参照 ・頭蓋底骨折の受傷機転、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について再度、説明できる。	大野 健二
131	後 期 (10月～3月)	「総合実践論Ⅰ」 救急救命士が救急現場における総合的な救護活動について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用いて観察、問診。処置、臨床推論が総合的に実施できる。	大野 健二
132	後 期 (10月～3月)	「総合実践論Ⅰ」 救急救命士が救急現場における総合的な救護活動について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用いて観察、問診。処置、臨床推論が総合的に実施できる。	大野 健二
133	後 期 (10月～3月)	「総合実践論Ⅱ」 救急救命士が救急現場における総合的な救護活動について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用いて観察、問診。処置、臨床推論が総合的に実施できる。	大野 健二
134	後 期 (10月～3月)	「総合実践論Ⅱ」 救急救命士が救急現場における総合的な救護活動について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用いて観察、問診。処置、臨床推論が総合的に実施できる。	大野 健二
135	後 期 (10月～3月)	「総合実践論Ⅲ」 救急救命士が救急現場における総合的な救護活動について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用いて観察、問診。処置、臨床推論が総合的に実施できる。	大野 健二
136	後 期 (10月～3月)	「総合実践論Ⅲ」 救急救命士が救急現場における総合的な救護活動について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用いて観察、問診。処置、臨床推論が総合的に実施できる。	大野 健二

137	後 期 (10月～3月)	「総合実践論Ⅳ」 救急救命士が救急現場における総合的な救 護活動について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用い て観察、問診。処置、臨床推論が総合的に実施できる。	大野 健二
138	後 期 (10月～3月)	「総合実践論Ⅳ」 救急救命士が救急現場における総合的な救 護活動について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用い て観察、問診。処置、臨床推論が総合的に実施できる。	大野 健二
139	後 期 (10月～3月)	「総合実践論Ⅴ」 救急救命士が救急現場における総合的な救 護活動について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用い て観察、問診。処置、臨床推論が総合的に実施できる。	大野 健二
140	後 期 (10月～3月)	「総合実践論Ⅴ」 救急救命士が救急現場における総合的な救 護活動について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用い て観察、問診。処置、臨床推論が総合的に実施できる。	大野 健二
141	後 期 (10月～3月)	「総合実践論Ⅵ」 救急救命士が救急現場における総合的な救 護活動について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用い て観察、問診。処置、臨床推論が総合的に実施できる。	大野 健二
142	後 期 (10月～3月)	「科目認定試験（筆記試験）」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	大野 健二
成績評価方法		筆記試験（100点満点） なお専任講師担当分と外来講師担当分の筆記試験は総合的に評価する。		
準備学習など		【 講師からのアドバイス 】 総合的な知識・技術を統合的に用いてシミュレーション実習に取り組むこと。		

学科・年次	救急救命科 2年次
科目名	臨床実習 (Bedside teaching)
担当者	大野 健二、杉村 修一郎、実習指導医 *五十音順
単位数(時間数)	4単位 (臨床実習事前研修 20 時間 + 臨床実習 160 時間 = 180 時間)
学習方法	臨床実習
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第 10 版 臨床実習の学習の手引き（東海医療工学専門学校用）

授業概要と目的
【 学習目的 】 救急救命士病院実習ガイドラインに準じた救急医療に関連した知識の応用と救急救命処置に係わる技能の習得を主体に学習する。さらに、医療現場の見学と医行為の介助等を通じて、診療の補助に対する理解について学習する。 <u>*本実習は厚生労働省指定カリキュラムの「臨床実習（160時間）」と臨床実習事前研修（20時間）となる。</u> 【 授業概要 】 a. 病院の各部門を見学し、病院の機能について認識を深める。 b. 医師、看護婦など医療スタッフの仕事を理解し、その連携を知る。 c. 病院における救急患者への対応の仕組みを知る。 d. 救急室に搬入された救急患者への処置、診断の全体像を理解する。 e. ICU における患者管理を理解する。 f. 救急患者、家族に対するいたわりの心を持つ。 g. インフォームドコンセントの重要性を理解する。 なお、医師もしくは救急救命士などの医療従事者として医療機関などで救急医学に関する臨床経験のある各々の講師が、その専門分野における経験を活かし事前教育を行う。 また臨床実習においては臨床実習指導医として厚生労働省が認可する医療機関で救急医学に関する臨床経験のある各々の実習指導医および救急救命士が、その専門分野における経験を活かし臨床教育を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後 期 (10月～3月)	「臨床コミュニケーション(1)」 医療従事者、患者とその家族に対するコミュニケーション技法について理解する。	「コミュニケーションとチーム医療」 ・医療機関における専門用語(医学用語など)を用いた他の医療職とのコミュニケーションが実施できる。	大野 健二
2	後 期 (10月～3月)	「臨床コミュニケーション(2)」 医療従事者、患者とその家族に対するコミュニケーション技法について理解する。	「チーム医療」 ・チーム医療を考慮したコミュニケーションが実施できる。	大野 健二
3	後 期 (10月～3月)	「心電図波形の解説(1)」 臨床実習における不整脈などの心電図波形の解説方法について理解する。	「心電図の解説」 ・心電図モニターを用いて心電図波形の解説ポイントについて説明できる。	杉村 修一郎

4	後 期 (10月～3月)	「心電図波形の解説（２）」 臨床実習における不整脈などの心電図波形の解説方法について理解する。	「心電図の解説」 ・心電図波形記録より心拍数などを計算式に基づいて計算することができる。	杉村 修一郎
5	後 期 (10月～3月)	「心電図波形の解説（３）」 臨床実習における不整脈などの心電図波形の解説方法について理解する。	「心電図の解説」 ・ST変化および心室性期外収縮など不整脈に対する解説ポイントについて説明できる。	杉村 修一郎
6	後 期 (10月～3月)	「心電図波形の解説（４）」 臨床実習における不整脈などの心電図波形の解説方法について理解する。	「心電図の解説」 ・房室ブロックや心房性不整脈などの心電図波形の解説ポイントについて説明できる。	杉村 修一郎
7	後 期 (10月～3月)	「問診と臨床推論（１）」 主訴、現病歴、既往歴などの問診によって臨床推論の考察方法を理解する。	「主訴と臨床推論」 ・疾病状況に応じた自覚症状の主要を問診から情報収集を行い、臨床推論が実施できる。	杉村 修一郎
8	後 期 (10月～3月)	「問診と臨床推論（２）」 主訴、現病歴、既往歴などの問診によって臨床推論の考察方法を理解する。	「現病歴と臨床推論」 ・疾病状況に応じた現病歴を問診から情報収集を行い、臨床推論が実施できる。	杉村 修一郎
9	後 期 (10月～3月)	「問診と臨床推論（３）」 主訴、現病歴、既往歴などの問診によって臨床推論の考察方法を理解する。	「既往歴と臨床推論」 ・疾病状況に応じた既往歴を問診から情報収集を行い、臨床推論が実施できる。	杉村 修一郎
10	後 期 (10月～3月)	「問診と臨床推論（４）」 主訴、現病歴、既往歴などの問診によって臨床推論の考察方法を理解する。	「模擬傷病者に対するスキルチェック」 ・模擬傷病者に対して疾病状況に応じた問診による情報収集を行い、臨床推論が実施できる。	杉村 修一郎
11～90	【前期日程】 後 期 (9月～3月)	「臨床実習」 救急救命士病院実習ガイドラインを基盤とした「臨床実習の学習の手引き」に記載されている医療機関での実習内容について理解する。 ＊ 実習内容に関しては各医療機関の実情をふまえて随時変更する。		【各医療機関】 実習指導医
	【後期日程】 後 期 (9月～3月)			【各医療機関】 実習指導医
成績評価方法		臨床実習における知識、技術、人間性などの５項目（100点満点）によって評価する。 ＊採点詳細（知識 20%、技能 20%、理解・応用力 20%、態度 20%、総括（その他）20%）		
準備学習など		【 講師からのアドバス 】 これまで学習してきた知識・技術を医療機関での実習で反映させていく。		